

教育学研究科教員業績一覧

(2008年4月1日～2009年3月31日)

基礎教育学コース

今井 康 雄（教授）

<著書>

田中智志／今井康雄（編著）『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会，2009年2月。

<論文>

今井康雄「教育において「伝達」とは何か」『教育哲学研究』第97号，2008年5月，124-148頁。

今井康雄「「学力」をどうとらえるか——現実が見えないグローバル化のなかで」田中智志編著『グローバルな学びへ——協同と刷新の教育』東信堂，2008年6月，105-137頁。

今井康雄「「純粋贈与者」はどこまで純粋か——教育の起源をめぐる不純な考察」『近代教育フォーラム』第17号，2008年9月，117-130頁。

<口頭発表>

今井康雄「日本における「冷戦後教育学」の状況」シンポジウム「日本と中国の教育改革をめぐる対話——「質」の追求に向けて」，2008年7月19日，東京大学。

今井康雄「私にとっての教育思想史（学会）」教育思想史学会第18回大会，2008年9月13日，奈良女子大学。

今井康雄 "Die Medien und die 'Repräsentation'. Unterwegs zu einer pädagogischen Semantik der Medien", Symposium "Die Aufgabe der Erinnerung in der Pädagogik", 1. November 2008, Universität Osnabrück.

<その他>

今井康雄（書評）：矢野智司『贈与と交換の教育学——漱石、賢治と純粋贈与のレッスン』、『児童心理』881号，2008年8月号，141頁。

今井康雄（書評）：對馬達雄『ナチズム・抵抗運動・戦後教育——「過去の克服」の原風景』、『日本の教育史学』第51集，2008年10月，171-173頁。

今井康雄（訳）：アイクホフ「家」，ヴルフ編『歴史的人間学事典』第1巻，藤川信夫監訳，勉誠出版，2008年5月，307-320頁。

今井康雄（訳）：ドライツェル「苦」，ヴルフ編『歴

史的人間学事典』第3巻，藤川信夫監訳，勉誠出版，2008年5月，84-113頁。

今井康雄（訳）：ヴルフ「イメージ・まなざし・イマジネーション」『研究室紀要』（東京大学大学院教育学研究科教育学研究室），第35号，2009年3月，125-134頁。

金 森 修（教授）

<編著>

『エピステモロジーの現在』編著慶應義塾大学出版会，2008年11月10日，pp.1-500.

<分担執筆論文>

「〈認識の非自然性〉を頌えて」岩波講座哲学第4巻『知識 / 情報の哲学』岩波書店，2008年10月8日，pp.57-76.

<参考論文・エッセイなど>

「思想の100年をたどる（4）」座談会：荻野美穂・金森修・杉田敦・吉見俊哉『思想』第1008号，2008年4号，2008年4月5日，pp.155-201.

「ミシェル・セール 混合体の哲学」鷲田清一編『哲学の歴史』第12巻，中央公論社，2008年4月25日，pp.740-744.

「近未来社会の中の理科教育」「倫理的観点に立った日本の教育の問題点の解明及び求められる基本戦略の研究」について，財団法人二十一世紀文化学術財団，加藤研究会報告書，2008年6月，第9章，pp.108-123.

「ホモ・ジェネティクスへの文化的随行」上田昌文・渡辺麻衣子編『エンハンスメント論争』，社会評論社，2008年7月31日，第Ⅱ部第4章，pp.200-217.

「書物が私を作った」内山勝利他編『哲学の歴史』別巻，『哲学と哲学史』，中央公論新社，2008年8月30日，p.375.

「記憶の反實在論」『Mobile Society Review』No.14，2008年12月25日，pp.42-45.

<書評>

「よくまとまった論攷が並ぶ」『週刊読書人』第2743号，2008年6月20日

「2008年上半期三冊」『週刊読書人』第2748号, 2008年7月25日

「2008年上半期読書アンケート」『図書新聞』第2880号, 2008年8月2日

「人間性の本質の不確かさ論証」『日本経済新聞』2008年9月7日

「改めて、モダニズムの射程を問う」『週刊読書人』第2758号, 2008年10月10日

「2008年下半期読書アンケート」『図書新聞』第2899号, 2008年12月27日

「集团的営為から広がる技術史」『日本経済新聞』, 2008年12月21日

「2008年読書アンケート」『みすず』第568号, 2009年2月1日, pp.5-6.

「良質の啓蒙書であると共に」『週刊読書人』第2781号, 2009年3月27日

<学会発表等>

「虚構の『近代』」: ブリュノ・ラトゥールとの対談
エスパス・イマージュ, 日仏会館, 2008年6月13日

「三木の自然学と自然哲学」『第17回三木成夫記念シンポジウム: 発生と進化』, 順天堂大学, 2008年7月23日

「下村寅太郎の機械観」, Etre vers la vie, Colloque Euro-japonais, Cerisy-la-Salle, 2008年8月23日~30日

“Autour de la question de Bios et de Zoe” Autour du corps humain, Bioéthique comparée France - Japon, Centre Georges Canguilhem, 2008年9月4日~5日

川 本 隆 史 (教授)

<単行本>

川本隆史 (単著), 『共生から』 (双書・哲学塾), 岩波書店, 2008年, 総ページ数153.

<論文>

川本隆史 (単著), 「不条理な苦痛」と「水俣の傷み」——市井三郎と最首悟の《衝突》・覚え書, 『岩波講座 哲学』第1巻=いま (哲学する) ことへ, 岩波書店, 2008年, pp.277-299.

川本隆史 (単著), 「まず社会の品格と社会の正義とを求めよ——安克昌さんから学び続けたいこと」, 『治療の聲』第9巻第1号 (星和書店9, 2009年, pp.25-29.

川本隆史 (単著), 「格差原理・デモクラティックな平等・租税による支え合い——“溜め”のある社

会をめざして」, 日本哲学会編『哲學』 (知泉書館) 60号, 2009年, pp.33-50.

<その他の業績>

川本隆史 (講演), 「社会倫理学のすすめ」, 広島県立安古市高等学校進路講演会, 2008年11月5日 (広島県立安古市高等学校)

川本隆史 (講演), 「もやい・共生・内発的義務——《共生》と《ケア》をめぐる」, 日本発達障害ネットワーク第4回年次大会基調講演, 2008年12月14日 (目白大学新宿キャンパス)

川本隆史 (講演), 「共生の系譜学のために——生後8ヵ月健診の臨床レポート」, 神戸大学大学院人文学研究科「共生倫理研究会」シンポジウム「共生の人文学」, 2008年12月21日 (神戸大学大学院人文学研究科)

小 玉 重 夫 (教授)

<著書>

共著『18歳が政治を変える! ~ユース・デモクラシーとポリティカル・リテラシーの構築~』第3部第5章「バーナード・クリックとイギリスのシティズンシップ教育」を執筆, 特定非営利活動法人Rightsほか編, 現代人文社, 2008年10月

共著『教育理論』第18章「公共性・異質な他者への開放性」, 第19章「学力・有能であることと無能であること」を担当, 今井康雄・田中智志編, 東京大学出版会, 2009年2月

<雑誌論文>

小玉重夫 (単著) 「学力調査の思想史的文脈——新しい国家統制か, それとも福祉国家の再定義か」耳塚寛明ほか『教育格差発生・解消の調査研究報告書』ベネッセコーポレーション, pp.111-120, 2009.3.

小玉重夫 (単著) 「教育における遂行中断性・序説」東京大学大学院教育学研究科教育学コース『研究室紀要』第35号, pp.1-8, 2009.3.

<その他の業績>

小玉重夫 (単著) 「教育学における公儀と秘儀」教育哲学会『教育哲学研究』第97号, 2008.5. pp.149-150

小玉重夫 (単著) 「図書紹介・嶺井明子編著『世界のシティズンシップ教育』東信堂」日本教育学会『教育学研究』第75巻第3号, p.53, 2008.9.

小玉重夫 (単著) 「シティズンシップ教育の実践的課題——小学校におけるシティズンシップ教育」お

茶の水女子大学附属小学校『児童教育』19号,
pp.12-19, 2009.2.

小玉重夫(単著)「格差社会と能力主義」大森正博・
小玉重夫・平岡公一編『社会的格差の諸問題』お
茶の水女子大学グローバルCOEプログラム「格差
センシティブな人間発達科学の創成」pp.30-35,
2009.3.

谷 本 宗 生(助教)

<雑誌論文>

谷本宗生(単著),「聯合府県立学校設立構想の背景
—府県内の動向・その手がかり—」,『1880年代
教育史研究会ニューズレター』第22号, 2008.6,
pp.3-4.

谷本宗生(単著),「明治初め頃の東京の生活ぶり
—桑茶の植え付け・蓮の実採り・兎飼育—」,
『1880年代教育史研究会ニューズレター』第23号,
2008.9, pp.3-4.

谷本宗生(単著),「1930年1月の立山剣沢遭難事件
にあって一本学学生らによる自己点検・活動
報告—」,『東京大学史史料室ニュース』第41号,
2008.11, pp.4-5.

谷本宗生(単著),「「赤門五十年変遷稗史」という
大学新聞記事から—駒場前史の校風—」,『東京大
学史史料室ニュース』第42号, 2009.3, pp.4-5.

<その他の業績>

谷本宗生(口頭発表),「大正期の高等教育機関の設
置過程—金沢の過程を通して—」,旧制高等学校
記念館第13回夏期教育セミナー, 2008.8.

谷本宗生(文献紹介),「木村小舟「遊学少年の行方」
「私立学校の内幕」『明治少年文化史話』童話春
秋社, 1951」,『1880年代教育史研究会ニューズレ
ター』第24号, 2009.1, p.7.

谷本宗生(資料目録・共編),「『学内広報』表紙写
真目録(300~783号)」,『東京大学史紀要』第27号,
東京大学史料の保存に関する委員会, 2009.3,
pp.51-64.

吉 長 真 子(助教)

<著書>

吉長真子(共著),「農村における産育の「問題化」
——1930年代の愛育事業と習俗の攻防」,『生命
というリスク——20世紀社会の再生産戦略』(川
越修・友部謙一編著),法政大学出版局, 2008,
pp.101-139, 総頁数318.

<雑誌論文>

吉長真子(単著),「日本における〈子育ての社会化〉
の問題構造——教育と福祉をつらぬく視点から」,
『研究室紀要』第34号, 東京大学大学院教育学研
究科教育学研究室, 2008, pp.1-13.

吉長真子(単著),「これからの保育園・幼稚園」,
『チャイルドヘルス』Vol.12 No.3, 診断と治療社,
2009, pp.32-36.

<その他の業績>

〈図書紹介(吉長真子 単著)〉愛育ねっと(子ども
家庭福祉情報提供事業)ブックガイド
<http://www.aiiku.or.jp/aiiku/jigyo/contents/shohyo/syohyo.htm>

・汐見稔幸他編『乳児保育の基本』(フレーベル館,
2007), 愛育ねっと, 2008.6更新

・浅井春夫他編『子どもの貧困』(明石書店,
2008), 愛育ねっと, 2008.7更新

・沢山美果子『江戸の捨て子たち』(吉川弘文館,
2008), 愛育ねっと, 2008.8更新

・小野田正利『親はモンスターじゃない!』(学事
出版, 2008), 愛育ねっと, 2008.9更新

・原田正文『完璧志向が子どもをつぶす』(筑摩書
房, 2008), 愛育ねっと, 2008.12更新

比較教育社会学コース

荻 谷 剛 彦(教授)

<著書>

『教育再生の迷走』筑摩書房, 2008年12月

『学力と階層』朝日新聞出版社, 2008年12月

『教員評価』(諸田裕子, 妹尾渉, 金子真理子と共
著), 岩波書店, 2009年3月

『教育と平等』中央公論新社, 2009年6月

白 石 さ や(教授)

<著書・論文>

「東アジア大衆文化ネットワークと韓日交流」崔章
集&濱下武志編, キム・ウヨン翻訳(ソソコン
フェ大学日本学科)『東アジアの中の韓日交流』
アヨン(亜研)出版部, 2008年7月7日, 59-85
ページ。(日本語原著「東アジア大衆文化ネット
ワークと日韓文化交流」濱下武志&崔章集編『東
アジアの中の日韓交流』慶応義塾大学出版会,
2007年, 49-76ページ, の韓国語翻訳出版)

「日本とインドネシア——戦略的パートナーシップ
構築に向けて: <アニメ・マンガ世代>が日イ

関係を変える」『外交フォーラム』 Sep. 2008, No. 242, 72-73ページ。

「特集 アジアにおける留学の新段階—アジア諸国の高等教育戦略と留学生政策」アジア政経学会『アジア研究』第54巻 第4号 2008年10月, 3-69ページ, (平野健一郎・杉村美紀・太田浩・白石さや・二宮皓による共著。分担執筆部分:「どこから?どこへ?—遍路札所を結ぶアジア・太平洋の高等教育ネットワーク構築」44-55ページ)。

Pahlawan-Pahlawan Belia: Keluarga Indonesia dalam Politik, Jakarta: Nalar (April 2009) (英語で出版した単著Saya S. Shiraishi, *Young Heroes: The Indonesian Family in Politics*, Cornell University Southeast Asia Program Publications, 1997, のインドネシア語翻訳の改定版)

<社会的活動>

外務省 国際漫画賞 実行委員会委員

日本国際文化学会常任理事

独立行政法人国際協力機構『インドネシア大学日本研究センター支援計画第3フェーズ』『第4班 マスメディアと市民社会』プロジェクトの指導。

<学会発表・特別講義等>

2008年11月15日 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 講義「教育とメディア: 教育・メディアと国民国家」

2008年11月22日 東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 講義「ポピュラーカルチャーと東アジア共同体」

2008年12月10日 Closing Symposium: The Project for Research Cooperation on the Center for Japanese Studies, University of Indonesia, Phase III, “For Future Dynamic Waves of Japanese Studies In Indonesia,” Sesseion 6: Research Result Presentation “Media and Civil Society.” (国際協力機構プロジェクト専門家短期派遣『インドネシア大学日本研究センター支援計画第3フェーズ』最終成果報告会 第6セッション「メディアと市民社会」報告)。

2009年1月10日 日文研共同研究『文化の所有と拡散』第16回研究会報告「グローバル化する文化拡散: マンガ・アニメの事例から」

恒吉 僚子 (教授)

<著書>

恒吉僚子 (単著)『子どもたちの三つの「危機」—

国際比較から見る日本の模索』勁草書房, 総頁数216。

<分担執筆・報告書>

恒吉僚子「グローバル化社会における学力観」基礎学力研究開発センター『基礎学力を問う』第3章, 東大出版協会, 2009年, 55-79。

“Cultural Diversification and Japanese Education: Social Constructions of the New Diversity.” Pp. 1-6 in *The International Encyclopedia of Education*, 3rd Edition, edited by Barry McGaw, Penelope Peterson, and Eva Baker, Oxford: Elsevier, 2009.

Ryoko Tsuneyoshi et al. “Tracking and Equity in the Japanese Educational Context,” (教育における平等と日本版能力別指導・トラッキングの国際比較研究) in *Tracking and Equity in the Japanese Educational Context*, 基盤研究C, 研究課題番号19530746, 2008年, 1-21. 研究代表者: 恒吉僚子。

<学会発表>

「東アジアの学校改革—“学びの共同体”を中心に」東京大学教育学研究科東アジア学校改革プロジェクト他主催, 指定討論者。2009年, 7月。

「新生アメリカの教育改革」リンダ・ダーリング・ハモンズ特別招待講演, 日本教育学会68回大会, 指定討論者, 2009年, 8月。

本 田 由 紀 (教授)

<著書>

本田由紀 (単著), 『軋む社会』, 双風舎, 2008, 総頁数255。

本田由紀・筒井美紀 (編著), 広田照幸 (監修), 『リーディングス 日本の教育と社会⑩ 仕事と若者』, 日本図書センター, 2009, 総頁数403。

<雑誌論文>

本田由紀 (単著), 「毀れた循環」, 東浩紀・北田暁大編『思想地図』vol.2, 日本放送出版協会, 2008, pp.13-34。

<その他の業績>

本田由紀・河添誠・湯浅誠 (鼎談), 「「不器用さ」は排除されても仕方がないか」, 湯浅誠・河添誠 (編), 『「生きづらさ」の臨界』, 旬報社, 2008, pp.15-65。

本田由紀・太田光・田中裕二, 『爆笑問題のニッポンの教養 我働くゆえに幸あり?』, 講談社, 2008, 総頁数139。

本田由紀, 「誰も完璧ではない」, 朝日新聞社編『仕

事力 紅版』, 朝日新聞出版, 2009, pp.203-214.
 遠藤公嗣・河添誠・木下武男・後藤道夫・小谷野敦・
 今野晴貴・田端博邦・布川日佐史・本田由紀, 『岩
 波ブックレットNo.746 労働, 社会保障政策の転
 換を』, 岩波書店, 2009, 総頁数61.
 大澤真幸・平野啓一郎・本田由紀(座談会), 「〈承認〉
 を渴望する時代の中で」, 大澤真幸編『アキハ
 バラ発 〈00年代〉への問い』, 岩波書店, 2008,
 pp.212-234.

橋本 鉦 市(准教授)

<著書>

橋本鉦市(単著)『専門職養成の政策過程—戦後日
 本の医師数をめぐって』学術出版会, 2008年7
 月, 全443頁.

<報告書>

橋本鉦市(編著)『高等教育政策の形成・決定メカ
 ニズムの定性的・定量的分析』(2006~2008年度
 科学研究費補助金・基盤研究(C)研究成果報告
 書), 2009年3月, 全201頁

<雑誌論文>

橋本鉦市(単著)「全入時代の学部・学科改革—立
 教大学」『カレッジマネジメント』152号, 26-29
 頁, 2008年8-9月号.

橋本鉦市(単著)「全入時代の学部・学科改革—専
 修大学」『カレッジマネジメント』152号, 30-33
 頁, 2008年8-9月号.

橋本鉦市(単著)「高等教育をめぐる政策形成の変
 容と課題—1990年代後半以降を中心に—」橋本編
 『高等教育政策の形成・決定メカニズムの定性的・
 定量的分析』26-38頁, 2009年3月.

<その他の業績>

橋本鉦市(書評)「山野井敦徳編『日本の大学教授
 市場』(玉川大学出版部)」『IDE』, No.500, 2008
 年5月号, 66-67頁.

橋本鉦市(講演)「女性研究者のキャリア展開とそ
 の制度的環境」『第4回東北大学沢柳賞(プロジェ
 クト部門)受賞講演』2008年11月22日, 東北大学
 男女共同参画委員会.

橋本鉦市(講演)「女子院生と研究室文化—インタ
 ビュー調査を通して—」『東北大学大学院教育学
 研究科男女共同参画カンファレンス』2009年2
 月3日, 東北大学大学院教育学研究科

小 山 治(特任助教)

<著書>

東京大学教育学部比較教育社会学コース・Benesse
 教育研究開発センター(編著), 『都立高校生の生
 活・行動・意識に関する調査報告書』, 小山治,
 「将来やりたい仕事の決定を先送りすることの規
 定要因と帰結——4年制大学進学予定者に着目
 して——」, ベネッセコーポレーション, 2009,
 pp.97-108.

<雑誌論文>

小山治(単著), 「なぜ新規大卒者の採用基準はみえ
 にくくなるのか——事務系総合職の面接に着目し
 て——」, 『年報社会学論集』第21号, 関東社会学
 会, 2008, pp.143-154.

小山治(単著), 「大卒就職に関する質問紙調査にお
 ける採用重視・評価項目の再検討——事務系総合
 職採用の能力評価のあり方に着目して——」, 『東
 京大学大学院教育学研究科紀要』第48巻, 2009,
 pp.69-79.

<その他の業績>

小山治(学会発表), 「『注力エピソード』に基づく
 能力評価のあり方——大卒事務系総合職採用を中
 心にして——」, 日本教育社会学会第60回大会(上
 越教育大学), 2008.

小山治(口頭発表), 「2008年度『青少年のための科
 学の祭典』全国大会アンケート調査結果報告——
 祭典がSTL・ERLギャップに対して及ぼす影響に
 着目して——」, 平成20年度青少年を対象とする
 参加体験型原子力PA総合プログラム 第3回有
 識者委員会(財団法人日本科学技術振興財団),
 2009.

<社会活動>

財団法人日本科学技術振興財団「平成20年度青年
 を対象とする参加体験型原子力PA総合プログラ
 ム有識者委員会」委員(2008年7月~2009年3月)

生涯学習基盤経営コース

影 浦 峽(教授)

<著書/編書等>

Kyo Kageura and Marie-Claude L'Homme. "Editorial
 Statement: Reflecting on fifteen years of research and
 development in terminology", Terminology, 14(2),
 2008, pp.153-157.

Youcef Bey, Christian Boitet and Kyo Kageura.
 "BEYTrans: A Wiki-based environment for helping

online volunteer translators”, Yuste, E. ed. Topics in Language Resources for Translation and Localization. Amsterdam: John Benjamins, 2008, pp.139-154.

<雑誌論文（査読有）>

Kyo Kageura. “An analysis of the motivatedness structure of Japanese terminologies”, *Mathematical Linguistics*, 26(7), 2008, pp.241-263.

辻慶太・芳鐘冬樹・松本直樹・影浦峽.「司書資格取得者に対する追跡調査：仕事・満足度を中心として」『図書館界』第60巻第3号, 2008, pp.166-179.

<国際会議論文（査読有）>

Keita Tsuji, Fuyuki Yoshikane and Kyo Kageura. “Effect of Japanese shisho librarian certification: Knowledge and motivation”, *Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice*, 2009.

Bin Umno, Kyo Kageura and Shinichi Toda. “Print media and modern subjects: A transcendental examination”, *Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice*, 2009.

Kyo Kageura and Takeshi Abekawa. “NLP meets library science: Providing a set of enhanced language reference tools for online translators”, *Asia-Pacific Conference on Library and Information Education and Practice*, 2009.

Youcef Bey, Kyo Kageura, Christian Boitet and Francesca Marzari. “Translating the DEMGOL etymological dictionary of Greek mythology with the BEYTrans wiki”, *WikiSym 2008: The International Symposium on Wikis*, 2008.

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. “QRcep: A term variation and context explorer incorporated in a translation aid system on the Web,” *Proceedings of the 13th Euralex International Congress*, 2008, pp.915-922.

Takeshi Abekawa and Kyo Kageura. “Constructing a corpus that indicates patterns of modification between draft and final translations by human translators”, *Proceedings of the 6th Edition of Language Resources and Evaluation Conference (LREC 2008)*, 2008.

Emmanuel Prochasson, Kyo Kageura, Emmanuel Morin and Akiko Aizawa. “Looking for transliterations in a trilingual English, French and Japanese specialised comparable corpus,” *Proceedings of the Workshop: Building and Using Comparable Corpora*, 2008, pp. 83-86.

<国際会議（その他）>

Kyo Kageura and Takeshi Abekawa. “Open translation tools: Chances and challenges,” 4th iSummit Session on Open Content, Open Translation: Multilingual Solutions, 2008.

<雑誌記事>

影浦峽.「『机・椅子・ピアマグ』と『フラレタリア』—概念の構築と発見（専門語ワンダーランド12）」『言語』第37巻12号, 2008, p. 55.

影浦峽.「『ジェノサイド』と『テロリズム』—専門用語とモドキ（専門語ワンダーランド11）」『言語』第37巻11号, 2008, p. 97.

影浦峽.「大数法則 誤用一意図してか、意図せずか（専門語ワンダーランド10）」『言語』第37巻10号, 2008, p. 97.

影浦峽.「人間とロボットと人間とロボット（専門語ワンダーランド9）」『言語』第37巻9号, 2008, p. 99.

影浦峽.「メタボリズム—名付けの体系（続続続）（専門語ワンダーランド8）」『言語』第37巻8号, 2008, p. 29.

影浦峽.「言語の工学—言語実務専門家の実践と言語の科学の間で」『言語』第37巻8号, 2008, pp. 82-89.

影浦峽.「シロクロは何色？—名付けの体系（続続）（専門語ワンダーランド7）」『言語』第37巻7号, 2008, p. 97.

影浦峽.「和・差・積・商—名付けの体系（続）（専門語ワンダーランド6）」『言語』第37巻6号, 2008, p. 35.

影浦峽.「ヤマドリタケとタマゴタケと、モドキ—名付けの体系（専門語ワンダーランド5）」『言語』第37巻5号, 2008, p. 97.

影浦峽.「熱および統計力学—奇妙な組み立てく2>（専門語ワンダーランド4）」『言語』第37巻4号, 2008, p. 97.

<招待講演等>

Kyo Kageura. “Universal multilingual terminology infrastructure: A non-technological aspect of the technological future of terminology”, *TAMA (Terminology for Advanced Management Applications) 2008: Workshop F on the Technological Future of Terminology; Invited Panelist*, 2008.

Kyo Kageura. “From term extraction to terminology compilation: The challenge for computational

terminology in an era of unlimited corpora availability,” TAMA (Terminology for Advanced Management Applications) 2008: Workshop C on Computational and Computer Assisted Terminology; Invited Panelist, 2008.

影浦峽.「椎茸プロジェクト：オンライン翻訳者支援の基本的考え方とシステム」AAMT Sharing/Standardization Working Group Meeting, 2008.

<その他の業績>

浅利俊介, 竹内孔一, 阿辺川武, 影浦峽.「Web上の兄弟ページを利用した対訳文書からの段落アラインメント」言語処理学会第15回年次大会, 2009.

内山将夫, 阿辺川武, 隅田英一郎, 影浦峽.「みんなの翻訳」言語処理学会第15回年次大会, 2009.

阿辺川武, 影浦峽.「QRpotato: 専門用語対訳の網羅的な収集」言語処理学会第15回年次大会, 2009.

阿辺川武, 植田禎子, 影浦峽.「英日翻訳における受動態の訳し方の分析」言語処理学会第15回年次大会, 2009.

根本 彰 (教授)

<著書>

根本彰 (単著), 「日本の公共図書館学とポスト福祉国家型サービス論」, 日本図書館情報学会研究委員会編, 『変革の時代の公共図書館：そのあり方と展望』, 勉誠出版, 2008, pp.19-38.

根本彰 (単著), 「日本の知識情報管理はなぜ貧困なのか：図書館・文書館の意義」, 『図書館・アーカイブズとは何か』(別冊環 No.15), 藤原書店, 2008, pp.59-70.

<雑誌論文>

根本彰 (単著), 「学校図書館の重要性を示唆する新指導要領」, 『学校図書館』, 693号, 2008.7. pp.15-18.

根本彰 (単著), 「「大学における科目」と図書館情報学検定試験」, 『日本図書館協会教育部会報』, 86号, 2008年12月, pp.13-16

根本彰 (単著), 「LIPER2検定試験の意義：ポストLIPER報告と図書館員養成教育(図書館学教育研究グループ研究例会)」, 『図書館界』, 60巻5号(通巻344号), January, 2009, pp.366-367.

根本彰 (単著), 「図書館の役割と選書」, 『地方自治職員研修』, 42巻3号, 2009年3月, pp.37-39.

<学会発表・その他>

根本彰 (単著), 「序文」, 中村百合子著, 『占領下日

本の学校図書館改革：アメリカの学校図書館の受容』, 慶應義塾大学出版会, 2009年, pp.i-vi.

根本彰 (単著), 「ジョン・E・ブッシュマン『民主的な公共圏としての図書館』(書評)」, 『図書館界』, Vol.60, No.4, Nov., 2008, pp.280-282.

根本彰 (単著), 「日独シンポジウム「学術図書館の将来展望および発展」およびワークショップ「欧州日本資料図書館における日本情報検索のノウハウ」に参加して」, 『jdzb echo』(ベルリン日独センター広報誌), 83号, 2008年6月, p.3.

根本彰 (学会発表), 「学校図書館の新しい可能性」, 『平成20年度第94回全国図書館大会兵庫大会要綱』, 同事務局, 2008, pp.58-60.

根本彰 (学会発表), 「「大学における科目」と図書館情報学検定試験」『平成20年度第94回全国図書館大会兵庫大会要綱』同事務局 2008 p.175-177.

根本彰 (学会発表), 「コメント」『平成20年度書誌調整連絡会議報告』, 国立国会図書館, http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/h20_conference_report.html

根本彰 (学会発表), “Galapagos or an isolated model of LIS educational development?: a consideration of Japanese LIS education in the international setting”, Asian and Pacific Region Library and Information Education Conference, Tsukuba, Japan, March 9 2009.

根本彰 (シンポジウム), 「シンポジウム情報の海 第2回沈まぬ「図書館」丸」, 『読売新聞』, 2008年11月19日朝刊.

根本彰 (取材協力), 「元厚生次官宅襲撃2か月…依然多い図書館の名簿利用制限」, 『読売新聞』, 2009年1月12日朝刊.

牧 野 篤 (教授)

<論文(単著・日本語)>

「「無償＝無上の贈与」としての生涯学習—または、社会の人的インフラストラクチャーとしての生涯学習—」, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営講座社会教育学研究室『生涯学習・社会教育学研究』第33号, 2009年3月, pp.1-12

「「過去」の架橋と対話に関する教育学的可能性—歴史認識の対立を媒介とした日中の和解に向けて—」, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営講座社会教育学研究室『生涯学習・社会教育学研究』第33号, 2009年3月, pp.13-21

「高齢社会モデルの初歩的構想と生涯学習—高齢社

会インタープリターの育成—」, 科学研究費補助金研究(基盤研究B)「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第3回コロキウム報告日本語版『高齢社会のデザインへ—東アジア少子高齢社会研究Ⅲ—新たな社会への課題—日本語論文集』, 2009年3月, pp.142-167

「流動化する労働市場と成人教育—自己実現としての就労の萌芽—」, 諏訪哲郎・王智新・斉藤利彦編著『沸騰する中国の教育改革』(学習院大学東洋文化研究叢書), 第9章, 東方書店, 2008年12月, pp.253-295

「感謝から好奇心そして自己の尊厳へ—アンケート調査に見る高齢者の価値観と生き方—」, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属生涯学習・キャリア教育研究センター『生涯学習・キャリア教育研究』第4号, 2008年5月, pp.33-62

<論文(単著・外国語)>

「日本の老人大学—在福利與教育之間的橋梁—」, 大学経営国際論壇編輯委員会編『大学品牌與經營—第二届大学経営国際論壇論文集』, 華文出版社, 2008年5月, pp.58-103

“Lifelong Learning as a ‘Priceless Gift’: Or Lifelong Learning as a Human Infrastructure for Society,” Seoul National University, *Asia & Europe Dialogue in Education Research: Searching for New Paradigms, Agendas, and Research Network*, The 9th International Conference on Education Research, October 2008, pp.85-103

<論文(共著)>

「過疎・高齢地区における住民の生活と今後の課題—豊田市合併町村地区調査報告—」, 東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営講座社会教育学研究室『生涯学習・社会教育学研究』第33号, 2009年3月, pp.79-131 (佐藤智子・青山貴子・北川庄治・荻野亮吾・歌川光一と共著, 担当部分 pp.79-95, pp.121-131),

<報告書(編集・共著)>

『高齢社会のデザインへ—東アジア少子高齢社会研究Ⅲ—新たな社会への課題—日本語論文集』, 科学研究費補助金研究(基盤研究B)「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第3回コロキウム報告日本語版, 2009年3月, pp.168

『高齢者という価値—東アジア少子高齢社会研究Ⅱ—高齢社会の価値観と対策—日本語論文集』, 科

学研究費補助金研究(基盤研究B)「東アジアの少子高齢化と民衆の生育意識に関する教育学的研究」第2回コロキウム報告日本語版, 2008年8月, pp.282

<その他(書評・エッセイなど)>

「地域はすべてを教えてくれる—「はじめに」に代えて—」, 東京大学教育学部社会教育研究室『地元の人々に学ぶ—東京大学教育学部2008年度社会教育学演習「阿智村調査実習」報告』, 2009年3月, pp.i-ii

「わたし」の身体に宿る〈他者〉—違和感と語り口—, 愛知県立岡崎高等学校学友編集委員会『学友』52号, 2009年3月, pp.26-52

<学会発表>

国立中正大学成人及継続教育学系・国立中正大学高齢教育研究中心主催, 中華民国行政院国家科学委員会・教育部社会教育司指導「少子高齢化社会的職場学習」国際学術研討会(「少子高齢化社会とワーク・プレイス・ラーニング」国際シンポジウム), 2008年10月30日-31日, 中華民国国立中正大学教育学院

「少子高齢化対職場学習的衝撃」(「少子高齢化のワーク・プレイス・ラーニングにもたらす衝撃」)

The 9th International Conference on Education Research, “Asia and Europe Dialogue in Education Research: Searching for New Paradigms, Agendas, and Research Networks”, October 27-28, 2008, Hoam Convention Center, Seoul National University, Seoul, Korea (Hosted and Organized by Education Research Institute, Seoul National University, Brain Korea 21, European Society for Research on the Education of Adults, Research Committee on Sociology of Education)(Sponsored by Seoul National University, Ministry of Educational Science and Technology, Korea)

Lifelong Learning as a ‘Priceless Gift’: Or Lifelong Learning as a Human Infrastructure for Society

International Conference “History Education and Reconciliation-comparative perspectives on East Asia”, Georg-Eckert-Institute for International Schoolbook Research(Germany) in cooperation with the Northeast Asia History Foundation(South Korea), October 13-15, 2008, Georg-Eckert-Institute for International Schoolbook Research, Braunschweig, Germany.

Bottleneck in the Perception of Asia in the Post-War

Japanese Pedagogy-Toward a Reconciliation Without the Sharing of the Past-

大学経営・政策コース

金子元久(教授)

<著書、編著・共著>

金子元久(金美蘭訳)、『大学の教育力』(韓国語版)、2008. Snhakusa, 2008年10月。

<論文>

「大学教育の質的向上のメカニズムー〈アウトカム志向〉とその問題点」、『大学評価研究』 8 (2009)、pp.17-29.

“Incorporation of national universities in Japan: Design, implementation and consequences ,” *Asia Pacific Education Review* (Springer Netherlands). Volume 10, Number 1 (Mar. 2009), pp. 59-67.

「中教審の展望」、『日本経済新聞』(2009年1月19日)

「激動する世界の大学」、『IDEー現代の高等教育』 507 (2009年1月)、

「「学士」力と「教育」力」、『IDEー現代の高等教育』 (2008年10月)。

国際会議発表論文

「大学教育と学習達成度評価、韓国教育開発院『日韓学習達成度評価セミナー』、ソウル、2009年10月29日

“Higher Education Assessment and Quality Assurance Dialogue among the SOE of Three Universities in East Asia.” *Higher Education Assessment and Quality Assurance*, 16-17 October 2009 GSE Hall Peking University, Beijing, China

“Teaching and Learning in Higher Education Some Observations,” *What Works Conference on Quality of Teaching in Higher Education*, OECD-IMHE 12-13 October 2009, Istanbul Technical University

“Learning in the Japanese Universities: Observations from the 2007 National Student Survey,” (power-point presentation) *CSHE-AAU Meeting*, Berkeley. 2 May 2009.

“Student Experience in the Japanese Universities,” (power-point presentation), *3rd Annual SERU Research Symposium*, Center for the Studies in Higher Education, Berkeley, 1 May 2009.

<学会発表・講演>

金子元久・両角亜希子・谷村英洋、「学習行動の大学間ベンチマーキングー大規模学生調査におけ

るメゾ分析が示すもの」、日本高等教育学会第12回大会、2009年5月23日

「大学教育改革の焦点」、『第6回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム』、2009年9月12-13日

「大学教育と職業」経済同友会『教育問題委員会』、2009年9月7日

「教育学研究における若手研究者育成コメント」、日本教育学会 第68回大会 シンポジウム、2009年8月28日

「大学教育に今、求められるもの」、北星学園大学『2009年度 北星学園研修会』、2009年8月7日

「学士教育の質的向上と保証」、日本私立大学連綿『私立大学フォーラム、学士課程教育を構築するー質的保証システムのために』、2009年7月18日

「大学の教育力と職員の役割」大学セミナーハウス、2009年7月10日

「大学の教育力と学生調査」、一橋大学『大学教育研究開発センター2008年度第2回全学FDシンポジウム』、2009年1月30日

「学士課程教育の改革戦略」、IDE高等教育研究フォーラム、2009年3月27日

「私立大学のガバナンスー現状と課題」、慶應義塾評議員会ガバナンス検討委員会幹事会、2009年2月9日

「現代の高等教育」、『立命館大学 大学連携SD/FDプログラム』、2009年2月2日

「大学の教育力と学生調査」、一橋大学 大学教育研究開発センター『2008年度第2回全学FDシンポジウム』、2009年1月30日

「大学の教育力ー課題と戦略」、東洋大学 FD講演会、2008年12月17日

「学士課程教育の構築にむけて」、千葉大学シンポジウム、2008年12月8日

「日本の国立大学の未来ー大学の将来像」、滋賀大学 外部アドバイザー会議、2008年11月28日

“Paradigm Shift in Higher Education -From Expansion to Qualitative Change,” National Chi-Nan University, *Comparative Education Seminar*, 25 November 2008

“Incorporation of National Universities in Japan-The Design and Issues,” Taichung University for Education, Taiwan, 24 November 2008

「大学教育と高校教育」、関東甲信越地区大学入学者選抜研究連絡協議会、2008年11月20日

「大学教育の課題」、大学コンソーシアム京都『2008

年度 職員のための大学セミナー』、2008年11月7日
 「高等教育の動向と質的保証」、日本学術会議「大学教育の分野別質保証検討委員会」、2008年10月29日
 「大学教育改革の展望」、文部科学省研究会、2008年10月2日
 「大学の教育力変革の展望」、帝京大学 平成20年度FD研修、2008年9月22日
 「大学法人の現状・課題・展望」、全大協第20回教職員研究集会、2008年9月13日

山 本 清（教授）

<著書>

「行政サービス供給の多様化」2009.2. 多賀出版。共編著。

<論文>

“Financial Management in a Dual System” paper prepared for 5th International Conference on Accounting, Auditing and Management in Public Sector Reforms, Amsterdam.
 「財務にみる法人化後の大学行動」2008.6.『大学財務経営研究』第5号。
 「政府の財務報告基準の設定と運用に関する政治経済的分析（1）～（6）」
 『会計と監査』、第59巻第4号～10号。

両 角 亜希子（講師）

<雑誌論文>

両角亜希子「教学主導の学部増設ラッシュー大きく動き出した同志社大学」リクルート『カレッジマネジメント』2008年9月 152号 34-37頁
 両角亜希子「学内の目標の共有を徹底し、積極的改革を実現（事例：中京大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2008年11月 153号 34-37頁
 両角亜希子「女子大学としての魅力を伸ばしながら改革に挑む（事例：日本女子大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2008年11月 153号 38-41頁
 両角亜希子「世界に通用する大学を目指した挑戦（事例：早稲田大学）」リクルート『カレッジマネジメント』2008年11月 153号 42-46頁
 両角亜希子「大学の寄付募集の取り組みと課題」日本私立学校振興・共済事業団『月報私学』2009年1月 133号 6-7頁

<その他の業績>

小林雅之・片山英治・羽賀敬・両角亜希子「アメリカの大学の財務戦略—4大学現地調査報告—」東大―野村 大学経営ディスカッションペーパー No.05, 2008年4月
 両角亜希子「英国にみる大学のガバナンス改革—シェフィールド大学の最新事情」『教育学術新聞アルカディア学報』2008年4月16日 320号
 金子元久、浦田広朗、大多和直樹、両角亜希子（学会発表）「大学生の学習参加の構造」日本高等教育学会第10回大会（2008年5月27日 東北大学）東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター（両角亜希子、谷村英洋、山岸直司、戸村理）『全国大学生調査 第一次報告書』2008年5月
 両角亜希子（シンポジウム）「大学教育のインパクト—全国大学生調査から」『CRUMP-IDE 大学教育改革セミナー：教育効果アセスメントと持続的な大学改革』（東京大学大学院教育学研究科 大学経営・政策研究センター、IDE大学協会主催）（2008年6月2日、東京大学理学部1F小柴ホール）
 両角亜希子（インタビュー記事）「体力がある地方の私大はそう簡単には潰れない」学研『進学情報』2008年6月号 2-5頁
 両角亜希子（講演）「アメリカの大学の組織と経営」日本私立大学連盟 平成20年度 業務創造研修（2008年7月1日）
 両角亜希子（講演）「海外の私立大学のガバナンス—アメリカを中心に」慶応義塾ガバナンス検討委員会（2008年9月17日）
 両角亜希子（講演）「大学の国際競争力」進研ゼミ 高校講座研修 これからの進路情報はどうあるべきか（2008年10月10日）
 両角亜希子「大学の社会人受け入れの現状と課題」日本私学経営活性化協会 10月 研究セミナー（2008年10月23日、青山ナレッジプラザセミナーホール）
 Akiko MOROZUMI（シンポジウム）“Teaching & Learning in Japanese Universities: Findings from the CRUMP Student Survey” 東京大学・ソウル国立大学・北京大学 国際セミナー Teaching and Learning in School: Issues and Challenges（2008年10月31日、ソウル国立大学、韓国）
 両角亜希子「韓国の大学の国際化—英語による授業

の積極導入』『教育学術新聞 アルカディア学報』
2009年2月4日 354号

両角亜希子（シンポジウム）「学習行動調査からみえてくるもの」『高等教育フォーラム：学士課程教育の改革戦略』（IDE大学協会、千葉大学、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策研究センター主催）（2009年3月27日、東京 学術総合センター）

両角亜希子（インタビュー記事）「大学の意識を教育内容に向けさせる答申」株式会社 進研アド『Between』2009年 Vol.1 特別号 4頁（2009年2月25日発行）

教育心理学コース

秋田 喜代美（教授）

<編著>

秋田喜代美・キャサリンルイス（編著）『授業の研究 教師の学習：レッスンスタディへのいざない』明石書店 pp219.（秋田喜代美（単著）「授業検討会談話と教師の学習」p114-131,（坂本篤史との共著 坂本・秋田）「授業研究協議会での教師の学習—小学校教師の思考過程の分析」p98-113,（ジーンウルフとの共著 ウルフ・秋田）「レッスンスタディの国際動向と授業研究への問い—日本・アメリカ・香港におけるレッスンスタディの比較研究」pp24-42. 2008.6

無藤隆・柴崎正行・秋田喜代美（編著）『幼稚園教育要領の基本と解説』フレーベル館 Pp229.（秋田喜代美（単著）「これからの幼児教育を展望する」p23-38,「小学校との連携」p148-162.）2008.7

秋田喜代美・中坪史典・砂上史子（編著）『領域「言葉」—言葉の育ちと広がりをもとめて—』みらい pp166（秋田喜代美（単著）.「領域「言葉」と保育の中での言葉の育ち」p27-43. 2009.3

<分担執筆>

秋田喜代美（単著）「教師の学習としての授業研究」無藤隆・麻生武（編）『質的心理学講座第1巻 育ちと学びの生成』東京大学出版会 pp107-128. 2008.4

秋田喜代美（単著）「幼稚園と小学校の連携」大場幸夫（編）『ここが変わった保育所保育指針』チャイルド pp34-37, pp57-58. 2008.7

秋田喜代美（単著）「基礎となる言語力の育成」無藤隆・嶋野道弘（編）『確かな学力の育成』ぎょうせい pp182-210.2008.9.

秋田喜代美（単著）「文章の理解におけるメタ認知」三宮真智子（編）『メタ認知：学習力を支える高次認知機能』北大路書房 pp97-109. 2008.12

秋田喜代美・榎沢良彦・永田陽子・中坪史典（共著）「現代の子どもの生活と保育—質問紙調査から—」日本保育学会（編）『戦後の子どもの生活と保育』相川書房 pp139-182. 2009.1

秋田喜代美（単著）「幼稚園教育要領改訂のポイント 領域 言葉」無藤隆・柴崎正行（編）『新幼稚園教育要領・新保育所保育指針のすべて』別冊発達29 ミネルバ書房 pp65-70.2009.3

<学会誌論文>

秋田喜代美（単著）「園内研修による保育支援：園内研修の特徴と支援者にもとめられる専門性に注目して」『臨床発達心理実践研究』, 3, 35-40. 2008.7

鈴木正敏・秋田喜代美・芦田宏・門田理世・野口隆子・小田豊（共著）「ビデオ再生刺激法を用いた幼稚園・小学校教師の発達観の比較研究」『乳幼児教育学研究』, 17,117-126. 2008.11

Nakatsubo,F., Minowa,J. Akita,K., Sunagami,F. Yasumi,K. & Masuda,T.（共著）A study of the involvement of Japanese early childhood teachers in clean-up time. *Asia-Pacific Journal of Research in Early Childhood Education*, 3(1), 69-85. 2008.7

秋田喜代美（単著）「学校文化と談話コミュニティ—教育実践を語る談話への視座」『異文化間教育』29,3-15. 2009.2

秋田喜代美（単著）「保育の質の評価」『保育学研究』, 46(2),360. 2008.12

<雑誌論文>

秋田喜代美（単著）「読む力が育つ授業作りの課題」『言文』, 55,61-67. 2008.6

秋田喜代美（単著）「自然との出会い・かかわり・愛着」『幼稚園じほう』, 36(6),6-12. 2008.7

秋田喜代美（単著）「学びあう授業を創造するために」『教育研究』, 63(10),14-17. 2008.8

秋田喜代美（単著）「教室談話で育つメタ認知」『現代のエスプリ』497 内なる目としてのメタ認知』88-97. 2008.11

秋田喜代美（単著）「領域 言葉の基本と改定内容について」『初等教育資料』, 841,80-86. 2008.11

秋田喜代美（単著）「言葉による伝えあいができる子に育てるには」『3.4.5歳児の保育』, 3(2) 37-43. 2008.12

秋田喜代美（単著）「保育者の専門性向上のために（１）保育者の感性と判断を磨く」『保育界』, 406,18-19. 2008.6

秋田喜代美（単著）「保育者の専門性向上のために（２）保育を記し共に語る」『保育界』, 407,26-27. 2008.7

秋田喜代美（単著）「保育者の専門性向上のために（３）保育者の学習と同僚性」『保育界』, 408, 18-19. 2008.8

秋田喜代美（単著）「これからの保育所・幼稚園—指針・要領の改訂から」『チャイルドネット大阪』 88,4-8. 2008.12

秋田喜代美（単著）「幼児教育から小学校以上の学びへのつながり—幼児教育と小学校低学年に求めること—」『ぐんまの教育』 6, 16-19. 2009.1

秋田喜代美（単著）「国際的に高まる保育の質への関心」『BERD』, 16,13-16. 2009.1

秋田喜代美（単著）「保育園の教育とは—保育の内容、養護と教育の充実」『0.1.2歳児の保育』 P46-50. 2009.2

<対談等記録>

「世界の保育をみる」（泉千勢・秋田喜代美）『保育の友』, 56(6),10-25. 2008.

「科学上のミスコンダクトの防止と対応：フロネシスの育成」『保育の実践と研究』, 13(2),7-25. (佐々木保行・後藤宗理・秋田喜代美・大場幸夫・榎沢良彦) 2008.

<研究報告書>

厚生労働省科学研究費補助金政策科学研究事業『保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究』（平成19年度総括研究報告書. 研究代表 秋田喜代美）pp163. 2009.3

<学会発表>

秋田喜代美「研究公表における研究倫理」保育学会研究倫理問題検討委員会企画「科学上の「ミスコンダクト」の防止と対応：フロネシスの育成について」第61回大会発表論文集 S8. 2008.5

Akita, K. 'Early Childhood Education and Care for Knowledge-Based Economy in Japan' (invited speech) Paper presented at 7th Pacific Early Childhood Education of Research Association Chulalongkorn University.Thailand 2008.7

Kadota, R. & Akita, K. 'Professional development and evaluation of qualities of care and education: Discourse between Asia and Europe.' 18th European

Early Childhood Education Research Association Annual Conference(University of Stavanger, Norway). P97 2008.8

Minowa, J., Akita, K., Yasumi, K., Masuda, T. Nakatubo, F., and Sunagami, F. 'Perception of quality of care and education in particular activities: Analysis of clean-up time in Japanese preschools.' P98-99. 18th European Early Childhood Education Research Association Annual Conference(University of Stavanger, Norway) 2008.8

Nakatsubo, F., Sunagami, F., Minowa, J., Akita, K. Yasumi, K. and Masuda, T. 'A Study of the Involvement Early Childhood Educators in Two Scenarios: Arguments Between Children and Clean-up Time.' 18th European Early Childhood Education Research Association Annual Conference(University of Stavanger, Norway. 2008.8

秋田喜代美「PISAを通して考える読解力育成の観点から」日本教育心理学会50周年記念公開シンポジウム：京都 話題提供者 2008.8

秋田喜代美「教育実践研究への関与と倫理」日本心理学会企画シンポジウム話題提供者 日本心理学会第72回大会 2008.9.JPAS(2)

秋田喜代美「深い理解を志向する算数授業のジレンマ」準備委員会企画シンポジウム「授業を見る・語る・研究する」話題提供者 日本教育心理学会第50回総会発表論文集,S14-S15. 2008.10

秋田喜代美「学習の質から授業を考える」シンポジウム「授業を意味づける」話題提供者 日本教育心理学会第50回総会発表論文集S120-S121.2008.10

秋田喜代美「生涯学習としての言語力育成のための教育」シンポジウム「言語力の育成と認知カウンセリング」日本教育心理学会第50回総会発表論文集S110-S111. 2008.10

秋田喜代美 シンポジウム「クリティカル・シンキング：教育・法学・看護学分野における教育実践」指定討論者. 日本教育心理学会第50回総会発表論文集S146-147. 2008.10

芦田宏・門田理世・小田豊・秋田喜代美・鈴木正敏・野口隆子・箕輪潤子 「幼小人事交流体験者への質問紙調査—交流形態の違いからの分析」日本教育方法学会 第44回大会発表論文集 p145. 2008.10

中坪史典・箕輪潤子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・砂上史子 「保育における片付け尺度の開

発と検討 (1) 片付けの実態と目標の関連に注目して, (2) 幼稚園における片付けの目標に関する意識の質的検討」日本乳幼児教育学会第18回大会研究発表論文集 pp28-31. 2008.11

鈴木正敏・野口隆子・芦田宏・門田理世・秋田喜代美・小田豊「幼稚園・小学校教師の発達観に関する比較研究: ビデオ再生刺激法を用いて」日本乳幼児教育学会第18回大会研究発表論文集 p32-33 2008.11.

砂上史子・秋田喜代美・安見克夫・増田時枝・中坪史典・箕輪潤子「語りに見る実践知: 片付け場面に注目して」日本質的心理学会第5回大会発表 2008.11

Akita, K. 'The Developmental Process of a School Reform for Scaling up a Sustainable Learning Community' Paper presented at the Expert panel, 4th Annual Conference of World Association of Lesson Study. 香港教育学院: 香港 2008.11

Akita, K. 'How Video Supports the Lesson Study and Teachers' Professional Development' Paper presented at 4th Annual conference of World Association of Lesson Study. 香港教育学院: 香港 2008.11

Akita, K. 「日本の園内進修: 通過教師進修の幼小小合作」日韓国際幼児教育会議招待講演 台北市立教育大学: 台湾 2008.12.

市川伸一 (教授)

<著書>

『「教えて考えさせる授業」を創る—基礎基本の定着・深化・活用を促す「習得型」授業設計—』図書文化社, 2008 (単著, 総頁数 188)

『メタ認知—学習力を支える高次認知機能—』北大路書房, 2008 (三宮真智子編, 「第4章 学習方略とメタ認知」を瀬尾美紀子・植阪友理と分担執筆)

『小学校新学習指導要領 ポイントと教育課程づくり 総則』東洋館出版社, 2008 (学校運営実務研究会編, IV-2 「『教えて考えさせる指導』による基礎・基本の定着と深化」を分担執筆)

<一般雑誌論文>

「特集／教えるべきこと, 考えさせるべきこと 今, この人に聞く」『教育研究』(初等教育研究会), 2008, No.1275, Pp.34-39. (インタビュー記事)

「特集／中学校指導要領の改訂と各教科等の展望 中学校指導要領の改訂と今後の展望」『中等教育資料』(ぎょうせい), 2008, No.865, Pp.14-25. (草

野一紀・増田明美・布村幸彦との座談会記録)

「ゆとり教育, 学力低下論, そしてこれからの教育へ」『月刊高校教育』(学事出版), 2008, Vol.41, No.8, Pp.22-27. (インタビュー記事)

「特集／『移行期』重点課題にどう迫るか バランスのとれた統合的教育観を」『授業研究21』(明治図書), 2008, No.621, p.7.

「ゆとり教育と学力低下論のゆくえ」『みのりの時』(学事出版), 2008, No.3, Pp.34-39. (インタビュー記事)

「2 要因モデルから見た学習意欲の高め方」『教職課程』(協同出版), 2008, Vol.34, No.15, Pp.10-13. (インタビュー記事)

「『教えて考えさせる』という原点から教育を見直す」『現代教育科学』(明治図書), 2009, No.628, Pp.5-7.

岡田 猛 (教授)

<論文等>

・Okada, T., Yokochi, S., Ishibashi, K., & Ueda, K. (2009). Analogical modification in the creation of contemporary art. *Cognitive Systems Research*, 10, 189-203.

・縣拓充・岡田猛 (2009). 美術創作へのイメージや態度を変える展示方法の提案とその効果の検討 美術教育学, 30, 1-14.

<シンポジウム, 展覧会等の開催>

・東京大学駒場博物館特別展「behind the seen アートの舞台裏」企画者 2008年10月11日-12月7日

・東京大学教養学部公開講座「高校生のための金曜特別講座: behind the seen アートの舞台裏」話題提供者 2008年10月24日

・シンポジウム「behind the seen 熟達者の表現を支えるもの」企画者, 話題提供者 2008年11月29日, 東京大学駒場キャンパス

・東京大学大学院情報学環・学際情報学府主催シンポジウム「建築の際: 第3回 形式の際」話題提供者 2009年2月19日

佐々木 正人 (教授)

<著書>

佐々木正人 『アフォーダンス入門』講談社学術文庫 2008

佐々木正人 『時速250キロのシャトルが見える—トップアスリート16人の身体論』光文社新書

2008

佐々木正人編著 『動くあかちゃん事典—アフォーダンスの視点から乳幼児の育ちを考察』 小学館 2008

小林春美・佐々木正人編著 『新・子どもたちの言語獲得』 大修館書店 2008

後藤武・佐々木正人・深澤直人（黄友攻訳）『不為設計而設計＝最好的設計（デザインの生態学 中国語版）』 2008

<学会誌論文>

Tetsushi Nonaka & Masato Sasaki (2009)

‘When a Toddler Starts Handling Multiple Detached Objects: Descriptions of a Toddler’s Niche Through Everyday Actions’ Ecological Psychology, Vol.21 (2) pp.155-183

<学会発表>

佐藤由紀・渋谷友紀・佐々木正人「早期失明者における手振りの現れ—発話にともなう手振りの起源と発達についての考察—」日本生態心理学会第2回大会（2008）

伊藤万利子・三嶋博之・佐々木正人「けんだま遊びにおける知覚と行為」日本認知心理学会第6回大会（2008）

伊藤万利子・三嶋博之・佐々木正人「非周期的急速運動の分析」第22回人工知能学会全国大会（2008）

南風原 朝 和（教授）

<著書（分担執筆）>

三宅和夫・松見淳子・南風原朝和・高橋恵子「座談会：縦断研究の課題」, 三宅和夫・高橋恵子（編著）『縦断研究の挑戦—発達を理解するために』金子書房, 2008, pp.197-226.

<学会発表等>

伊藤研一・三木善彦・三木潤子・小林孝雄・南風原朝和「フォーカシング日常化傾向から見た集中内観」, 第31回日本内観学会大会（沖縄）, 2008.

南風原朝和「PAC分析を語る（1）：質的分析と量的分析の統合について」（指定討論）, 第50回日本教育心理学会自主シンポジウム（東京学芸大学）, 2008.

遠 藤 利 彦（准教授）

<著書>

遠藤利彦（分担・共著）小児科の活動と発達心理学（小西行郎との共著）, 丹野義彦・利島保（編）, 『医

療心理学を学ぶ人のために』, 世界思想社, 2008, pp.43-58.

遠藤利彦（分担・単著）感情と動機づけ研究の「これから」に寄せて. 上淵寿（編）, 『感情と動機づけの発達心理学』, ナカニシヤ出版, 2008, pp.233-253.

遠藤利彦（解題・単著）愛着理論と精神分析—対立から対話へ. 遠藤利彦・北山修（監訳）, 『愛着理論と精神分析』, 2008, pp. 266-288.

遠藤利彦（分担・単著）喜怒哀楽を感じる心：感情心理学入門. 繁耕算男・丹野義彦（編）, 『心理学の謎を解く：初めての心理学講義』, 医学出版, 2009, pp. 97-128.

<翻訳書>

遠藤利彦（監訳）『成人のアタッチメント：理論・研究・臨床』（谷口弘一・金政祐司・串崎真志と共監訳）, 北大路書房, 2008, 総頁数468.

遠藤利彦（監訳）『愛着理論と精神分析』（北山修と共監訳）, 誠信書房, 2008, 総頁数303.

遠藤利彦（監訳）『アタッチメント障害とその治療：理論から実践へ』（数井みゆき・北川恵と共監訳）, 誠信書房, 2008, 総頁数336.

<雑誌論文>

遠藤利彦（単著）共同注意と養育環境の潜在的連関を探る. 『乳幼児医学・心理学研究』, 17(1), 2008, pp.13-28.

遠藤利彦（単著）発達心理学における実践研究の立ち位置：理論と実践を往還する. 『臨床心理学研究』（金剛出版）, 9(1), 2008, pp.44-49.

遠藤利彦（単著）感応する心：視線と表情が発するもの. 『社団法人・電子情報通信学会・信学技報』（IEICE Technical Report), HCS2008-32, 2008, pp. 13-18.

遠藤利彦（単著）コミュニケーション場面におけるメタ認知：恥や罪の情動の機能も交えて. 『現代のエスプリ』（至文堂）, 497（丸野俊一編、「内なる目」としてのメタ認知）, 2008, pp.120-129.

遠藤利彦（単著）赤ちゃんの社会性の発達. 『赤ちゃん学カフェ』（ひとなる書房）, 1, 2008, pp.4-32.

<報告書類>

遠藤利彦（単著）鯨岡理論と愛着理論の間. 『てんむすフォーラム』（てんむすフィールド研究会）, 3, 2009, pp.59-81.

<学会発表>

遠藤利彦（招待講演）感応する心：視線と表情が発

するもの. 2008年8月・HCS/VNV合同研究会(神戸大学). 2008年8月26日.

遠藤利彦(招待講演)脳機能マッピングの陥穽: 脳神経科学の方法論を問い直す. 平成20年度・生理学研究学会「認知神経科学の先端 動機づけと社会性の脳内メカニズム」(生理学研究学会). 2008年9月11日.

遠藤利彦(指定討論)ワークショップ: 注意とは何か? 知覚・認知心理学と発達現場との接点を探る. 日本心理学会第72回大会(北海道大学). 2008年9月19日.

遠藤利彦(指定討論)ワークショップ: 境界のインターフェース: 異形の視点からの問い直し. 日本心理学会第72回大会(北海道大学). 2008年9月21日.

遠藤利彦(指定討論)ワークショップ: 成人アタッチメント研究の最前線(3). 日本心理学会第72回大会(北海道大学). 2008年9月21日.

遠藤利彦(司会・指定討論)シンポジウム: 養育者の目に映る乳幼児の心の世界: 養育者の主観的認知の多様性と子どもの発達. 日本発達心理学会第20回大会(日本女子大学). 2009年3月24日.

遠藤利彦(話題提供)シンポジウム: 日本発達心理学会の, 世界そして他分野との交流を模索. 日本発達心理学会第20回大会(日本女子大学). 2009年3月24日.

遠藤利彦(指定討論)ラウンドテーブル・ディスカッション: 乳幼児発達の知見が小児ガン医療に貢献できること. 日本発達心理学会第20回大会(日本女子大学). 2009年3月23日.

実藤和佳子・遠藤利彦・大神英裕(ポスター発表)乳幼児が示す模倣行動と他者理解の発達. 日本心理学会第72回大会(北海道大学). 2008年9月19日.

本島優子・遠藤利彦(ポスター発表)妊娠期の母親の子ども表象と生後18カ月の子どものアタッチメント安定性. 日本発達心理学会第20回大会(日本女子大学). 2009年3月25日.

<講演>

遠藤利彦 発達における情動の役割: 情と知・情の知・情に対する知. 臨床発達心理士会・千葉支部・公開講演会. 2008年6月1日.

遠藤利彦 関係性と子どもの社会情緒的発達: アタッチメント理論を中心に. うめだ・あけぼの学園夏季セミナー(津田ホール). 2008年8月4日.

遠藤利彦 鯨岡理論と愛着理論の間. 第3回てんむすフィールド研究会「鯨岡理論の現在」(名古屋大学). 2008年9月7日.

遠藤利彦 親子関係と赤ちゃんの社会性の発達. 宝塚地域育児支援士養成講演会(中山寺講堂). 2008年12月6日.

遠藤利彦 子育ての基本について考える: 親子関係と子どもの発達. 京都市南区保育士例会(京都府中小企業会館). 2008年12月13日.

遠藤利彦 養育者の「錯覚」という視点から子どもの育ちを考える. 長岡京市保育士講演会(海印寺保育園). 2009年1月24日.

針 生 悦 子(准教授)

<論文>

針生悦子, 「言語獲得」『児童心理学の進歩2008年版』, 日本児童研究所(金子書房), 2008, pp.1-26.

Imai, M., Li, L., Haryu, E., Okada, H., Hirsh-Pasek, K., Golinkoff, R. M., & Shigematsu, J., Novel noun and verb learning in Chinese-, English-, and Japanese-speaking children. *Child Development*, 79(4), Society for Research in Child Development, 2008, pp.979-1000.

針生悦子, 「対称性, 条件性弁別課題, そして言語獲得」, 『認知科学』第16巻1号, 日本認知科学会, 2009, pp.138-141.

梶川祥世・針生悦子, 「乳児における助詞「が」の認識」, 『玉川大学脳科学研究所紀要』第2巻, 2009, pp.13-21.

<その他の業績>

Haryu, E. (会議報告), Then, when and how should we start teaching children a foreign language? *Paper presented at the international conference on teaching and learning in school: Issues and challenges* (Seoul National University), 2008, pp.44-53.

梶川祥世・針生悦子(学会発表), 「6-15ヶ月児における格助詞「が」の認識」, 第22回日本音声学会(明海大学), 2008, pp.49-54.

坂本恵子・針生悦子(学会発表), 「形容詞解釈の発達の変化: 多肢選択課題による検討」, 日本心理学会第72回大会(北海道大学), 2008.

針生悦子(学会発表), 「幼児の擬音語理解: ドンドン鳴る太鼓はトントン鳴る太鼓より大きいことの理解とかな文字知識との関連」, 日本発達心理学

会第20回大会（日本女子大学），2009，p.104.

臨床心理学コース

下山晴彦（教授）

<著書>

- 下山晴彦（単著）『臨床心理アセスメント入門』，金剛出版，2008，総頁数233
- 下山晴彦（編著）『テキスト臨床心理学別巻一理解の手引き』，誠信書房，2008，総頁数180
- 下山晴彦 能智正博（編著）『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，総頁数351
- 下山晴彦・松澤広和（編著）『実践・心理アセスメント』，日本評論社，2008，総頁数187
- 下山晴彦（編集）『特集：心理学の実践研究 臨床心理学9(1)』，金剛出版，2008，3-66
- 関谷透・下山晴彦（監修）『うつ：家族ができること』，池田書店，2008，総頁数223
- 下山晴彦（翻訳）『子どもと若者のための認知行動療法ガイドブック』，金剛出版，2008，総頁数189
(Stallard,P.『Clinician's Guide to Think Good-Feel Good Using CBT with children and young people』2005 Wiley)

<雑誌論文>

- 下山晴彦（共著）「中国人大学生における強迫傾向と親の養育態度」（李 曉茹との共著）『パーソナリティ研究』16(3)，2008，335-349
- 下山晴彦（単著）「子どもと若者のための認知行動療法入門」教育心理学年報47，2008，47-50
- 下山晴彦（単著）心理学の実践研究育成という企て 臨床心理学9(1)，2009，3-7
- 下山晴彦（単著）「子どもと若者のための認知行動療法」臨床心理学9(2)，2009，259-268
- 下山晴彦（単著）「『子どもの心のケアの現場で役立つ心理専門職とは一チーム支援における臨床心理士の役割』を開催して」，東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要32，2009，273-276
- 下山晴彦（単著）「学習相談室の10年を振り返って—学習相談室でできていること・いないこと」，東京大学法学部学習相談室報告書平成20年度版，2008，21-30
- 下山晴彦（共著）「子どものための認知行動療法プログラムの開発研究」（屋嘉比光子・平林恵美・西村詩織・林潤一郎との共著），東京大学大学院教育学研究科紀要，2009，163-184.
- 下山晴彦（共著）「特集：医療領域における臨床心

理研修プログラムの開発研究」（平林恵美・西村詩織・慶野遥香・石津和子・吉田沙蘭・高山由貴・藤平敏夫との共著），東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要32，2009，115-124

下山晴彦（共著）「特集：子どもの強迫性障害に対する認知行動療法プログラムの開発研究」（西村詩織・平林恵美・慶野遥香・石津和子・吉田沙蘭との共著），東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要32，2009，12-135

下山晴彦（共著）「特集：集団を対象とした認知行動的心理教育プログラムの開発」（屋嘉比光子・有吉晶子・林潤一郎・西村詩織・平林恵美との共著），東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要32，2009，136-145

下山晴彦（共著）強迫性障害の子どもに対する認知行動療法プログラムの開発研究（西村詩織・平林恵美・慶野遥香・吉田沙蘭との共著），中間報告 児童思春期強迫性障害の診断・治療ガイドラインの検証および拡充に関する研究 研究報告会抄録集8，2008

<分担執筆>

- 下山晴彦（単著）「何のために研究するのか：研究の目的と方法」 in 下山晴彦・能智正博（編）『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，5-16
- 下山晴彦（単著）「実践に関する研究：調査型研究と実験型研究」 in 下山晴彦・能智正博（編），『心理学の実践的研究法を学ぶ』，新曜社，2008，91-100
- 下山晴彦（単著）「心理アセスメントとは何か」 in 下山晴彦・松澤広和（編）『実践・心理アセスメント』，日本評論社，2008，2-8
- 下山晴彦（単著）「心理アセスメントと精神医学的診断」 in 下山晴彦・松澤広和（編）『実践・心理アセスメント』，日本評論社，2008，9-15

<そのほか>

- 下山晴彦（シリーズ編集）「臨床心理学研究法2 岩壁茂（著）『プロセス研究の方法』 新曜社 総頁数236」
- 下山晴彦2008（シリーズ編集）「臨床心理学研究法7 安田節之・渡辺直登（著）『プログラム評価研究の方法』 新曜社 総頁数230」
- 下山晴彦2009（シリーズ編集）「臨床心理学研究の最前線2 落合美貴子（著）『バーンアウトのエスノグラフィー：教師・精神科看護師の疲弊』

ミネルヴァ書房 総頁数206]

田 中 千穂子 (教授)

<雑誌論文>

田中千穂子 (単著), 「心理臨床の専門性: 関係性という視点から」『発達につまづきのある子どもを理解する 専門性をいかした評価とは』コミュニケーション障害学 日本コミュニケーション障害学会編 2008, pp27-32

田中千穂子 (単著), 「子育ての出発点としての出生前診断—むずかしい選択をせまられる時代」『子育て論のこれから』そだちの科学10, 2008, pp48-51

田中千穂子 (単著), 「小池さんのケース論文へのコメント」(感情をだすと自分ではなくなってしまうと語る女性との面接過程) 東洋英和女学院大学大学院心理教育相談室紀要11, 2008, pp114-116

田中千穂子 (単著), 「プレイセラピーの世界」『特集 子どもたちの心理臨床』東京大学大学院臨床心理学コース紀要第32集 2009, pp147-151

田中千穂子 (単著), 「羽野 (謝) さんのケース論文を読んで」臨床心理事例研究 京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要35 2009, pp76-78

<その他の業績>

田中千穂子 (単著) 「こころとこころをつなぐもの」三重県教育相談講演会講演録 2008, pp71-99

田中千穂子 (取材原稿) 「教育相談 I」『東京大学vs 東大』東大新聞刊Pp131

田中千穂子 (単著) 「心理臨床と芸術の世界」東京大学大学院臨床心理学コース紀要第32集 2009, pp278-280

中 釜 洋 子 (教授)

<著書>

中釜洋子 (単著), 『家族のための心理援助』, 金剛出版, 2008.06., 総頁数249p.

中釜洋子 (共著), 『心理援助のネットワークづくり—<関係性>の心理臨床』, (高田治氏, 齋藤憲司氏との共著), 東大出版会, 2008.05.25., 総頁数281p.

中釜洋子 (共著), 『家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助』, (野末武義氏, 布柴靖枝氏, 無藤清子氏との共著), 有斐閣, 2008.12.05., 総頁数304p.

<雑誌論文>

中釜洋子 (単著) 「個人面接と家族面接の統合—あるひきこもり青年と家族の心理援助実践の分析から」, 家族心理学研究, 第22巻第1号, 2008.05, p.28-40.

中釜洋子 (単著), 「家族心理学における統合的視点」, 日本家族心理学会設立25周年記念特集号『家族心理学と現代社会』, 日本家族心理学会編集, 家族心理学年報26, 金子書房 2008.06, p.16-30.

中釜洋子 (単著), 「私の家族療法理論: 特集にあたって—あらためて“私の家族療法理論”を尋ねるわけ」, 家族療法研究, 第25巻第2号, 2008.08.31, p.3-4.

中釜洋子 (単著), 「明るい家庭を求めて 家族療法/家族心理学の立場から」, 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌, 第6巻第3号, 2008.11, p.280-283.

中釜洋子 (共著), 「国際ケースカンファランス」(遊佐安一郎氏, 石井千賀子氏, 田村毅氏, 小笠原知子氏, 吉川悟氏, 高橋規子氏との共著), 家族療法研究, 第25巻第3号, 2008.12., p.33-41.

中釜洋子 (単著), 「面接室の『内』と『外』」京都大学大学院教育学研究科心理教育相談室紀要, 臨床心理事例研究, 第35号, 2009.03.31, p.6-8.

<分担執筆>

中釜洋子 (単著), 「子ども同士の関わりを見守る親を支える」, 『月刊: 母子保健2008年4月号』, 588号, 2008.04.01, p.8.

中釜洋子 (単著), 「子どものバランス・家族のバランス」, 『東京大学公開講座講義要項』 2008.04, p.9-12

中釜洋子 (単著), 「アサーティブな表現を支える基本的人権—『子どもの権利条約』から」, 『児童心理 特集: 子どものためのアサーション』, 第877号, 金子書房, 2008.04.28, p.16-21.

中釜洋子 (単著), 「研究紹介6—v 子どもの問題行動をめぐる父母: 父親の変化を期待し促すということ」, 柏木恵子・高橋恵子編, 『日本の男性の心理学—もうひとつのジェンダー問題』, 有斐閣, 2008.06, p.291-296/303.

中釜洋子 (共著), 「座談会: 子どもの発達と心理教育・支援の現状と理想」, (青木豊氏, 石隈利紀氏, 松本真理子氏との共著), 『現代のエスプリ493』, 松本真理子編, サイエデュケーション: シリーズ: 子育てを支える心理教育とは何か: 誕生から

青年期まで, 2008.08.1, p.15-44.

中釜洋子 (単著), 「親密な関係を築きそれを維持する」, 平木典子編著, 『アサーション・トレーニング自分も相手も大切に自己表現』, 至文堂, 2008.09.01, p.185-194/202.

中釜洋子 (単著), 「成人期」「成人前期」などの数項目, 日本産業カウンセリング学会監修, 『産業カウンセリング辞典』, 金子書房, 2008.11.

中釜洋子 (単著), 「保育士を楽しむためのメンタルヘルス 7 アサーションでコミュニケーション力を伸ばす」, 『保育の友』, 第56巻第13号, 全国社会福祉協議会, 2008.11.01, p.53-54.

中釜洋子 (単著), 「保育士を楽しむためのメンタルヘルス 8 よいところをみつける力をつける」, 『保育の友』, 第56巻第14号, 全国社会福祉協議会, 2008.12.01, p.53-54.

中釜洋子 (単著), 「保育士を楽しむためのメンタルヘルス 9 アサーションでつくる豊かな人間関係」, 『保育の友』, 第57巻第1号, 全国社会福祉協議会, 2009.01.01, p.53-54.

中釜洋子 (単著), 「アサーションから学ぶ上手なコミュニケーション術」, 『笑顔』, 第39巻第13号, 保険同人社, 2008.12.10, p.3-7.

中釜洋子 (単著), 「書評 平木典子『カウンセリングの心と技術—心理療法と対人関係のありかた』」, 家族療法研究, 第25巻第3号, 2008.12.25, p.75-76.

中釜洋子 (単著), 「家族の未来をみやるために『家族心理学』の刊行によせて」, 『書齋の窓No.581』, 有斐閣, 2009.2.1, p.51-54.

中釜洋子 (単著), 「中釜洋子 (教育学研究科/教育学部)」, 文藝春秋編, 『東大教師が新入生にすすめる本2』, 文藝新書, 2009.03, p.215-217/258.

<シンポジウムなど>

中釜洋子 (シンポジウム), 大会シンポジウム「家族支援における専門家のコラボレーションのあり方」, 団士郎・米川文雄・中釜洋子・本間彰博, 日本家族心理学会第25回大会, 2008.08., 東北工業大学ウェルネスセンター (仙台)

中釜洋子 (シンポジウム), 「国際ケースカンファレンス」, Shi-Jiuan Wu, Moon Ja Chung, David McGill, Hiroko Nakagama など 9 名, 日本家族研究・家族療法学会第25回大会, 2008.06.08., 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京)

中釜洋子 (シンポジウム), 大会シンポジウム「明

るい家庭を求めて」, 足立陽子・鈴木恭子・中釜洋子・大家幸弘, 日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 第25回大会, 天理よろづ相談所病院 2008 06.01. 天理陽気ホール (天理)

中釜洋子 (ワークショップ), 大会ワークショップ「家族療法入門」, 中村伸一, 中釜洋子, 日本家族研究・家族療法学会第25回大会, 2008.06.05., 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京)

能 智 正 博 (准教授)

<著書>

能智正博 (単著) 「失語症の〈語り〉を聴くこと—“病い”の構築という視点から」やまだようこ編『質的心理学講座2: 人生と病いの語り』, 東京大学出版会, 2008年5月, pp.51-78

<雑誌論文>

Yamada, R., Izumi, K., Notoya, M., & Nochi, M. (共著) “Experience of aphasia understood through patient narratives: Focusing on the doubts about one's language and the coping behavior of patients.” *Journal of the Tsuruma Health Science Society Kanazawa University*, 32(1), 2008年7月, 13-23

能智正博 (単著) 「質的研究法の視点と実践研究」『臨床心理学』, 9(1), 2009年1月, 22-26

下山晴彦・能智正博・植阪友理・中澤潤・市川伸一 (共著) 「心理学における実践的研究の有効活用に向けて」『教育心理学年報』, 48, 2009年3月, 46-49

能智正博 (単著) 「インタビューにおける〈語り〉をどうみるか」『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』, 32, 2009年3月, 225-228

<その他の業績>

能智正博 (エッセイ) 「行為としての聴き取り①—「聴き取る」とはどういうことか」『えんかれっじ』, 7巻春号, 2008年5月, 5

能智正博 (講演) 「こころのことばを【聴く】—傾聴・共感の体験実習」いろえんぴつコミュニティズ心理福祉セミナー第14回, 横浜, 2008年6月

能智正博 (講演) 「体験のまとめとしてのナラティブ」平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修, 東京, 2008年7月

能智正博 (エッセイ) 「行為としての聴き取り②—五感を使って聴き取る」『えんかれっじ』, 7巻夏号, 2008年8月, 5

松本学・伊藤匡・能智正博・南部美砂子・足立智昭・

遠藤利彦（学会発表・話題提供）「境界のインターフェイス：異形の視点からの問い直し」日本心理学会第72回大会，札幌，2008年9月

繁樹算男・齋藤こずゑ・能智正博・和田博美（学会発表・話題提供）「心理学会倫理規程策定のためのラウンドテーブルディスカッション」日本心理学会第72回大会，札幌，2008年9月

下山晴彦・能智正博・植坂友里・中澤潤・市川伸一（学会発表・司会・話題提供）「心理学における実践研究の有効活用に向けて」日本教育心理学会第50回総会，東京，2008年10月

香川秀太・鯨岡峻・能智正博・森直久・三宅なほみ・無藤隆（学会発表・話題提供）「学習・発達論の最前線：質的研究はいかに発達・学習をとらえるべきか」日本質的心理学会第5回大会，つくば，2008年11月

原田満里子・能智正博（学会発表・ポスター）「障害をもつ妹の主体性の発見一姉による自己エスノグラフィの試み」日本質的心理学会第5回大会，つくば，2008年11月

能智正博（エッセイ）「行為としての聴き取り③—働きかけとしての言葉」『えんかれっじ』，7巻秋号，2008年11月，5

能智正博（講演）「対話としての・ナラティブ・分析」日本音楽心理学音楽療法懇話会第261回例会，東京，2009年2月

能智正博（講演）「質的データ分析の実際」第43回東大家族看護学研究会，東京，2009年2月

能智正博（エッセイ）「行為としての聴き取り④—聴くことは共同の営み」『えんかれっじ』，7巻冬号，2009年2月，5

家島明彦・荘島幸子・安田裕子・川島大輔・能智正博（学会発表・指定討論）「ナラティブ・アプローチの意味を問い直す—暗黙のナラティブ理解の明示化を通して」日本発達心理学会第20回大会，東京，2009年3月

能智正博（エッセイ）「『人違いかとは思いますが…』」『東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース紀要』，32，2009年3月，283-284

高橋美保（講師）

<雑誌論文>

高橋美保（単著），「求職者への心理的ケアはどうあるべきか—公共職業安定所における心理職の役割についての期待と認識」，『臨床心理学』第8巻第

3号，2008，pp.393-404.

高橋美保（単著），「公共職業安定所職員の精神健康と一般職業紹介の業務ストレスについて」，『日本労働研究雑誌』第576号，2008，pp.84-95.

高橋美保（単著），「日本の中高年男性の失業における困難さ：会社及び社会との繋がりに注目して」，『発達心理学研究』第19巻2号，2008，pp.132-143.

高橋美保（単著），「中高年失業者を社会につなぐ心理的援助とは」，『こころの科学』第142巻，日本評論社，2008，pp.393-404.

<その他の業績>

高橋美保（学会発表），「CBTを用いた再就職のストレスマネジメントセンターの効果」，『産業ストレス研究』第16巻第1号，2008，p.60.

高橋美保（パネリスト），「若手が語る内観療法の将来」，『内観学会抄録』，2008，p.16.

高橋美保（シンポジスト），平成20年度シンポジウム「現代の働く人を支える産業カウンセリング～メンタルヘルスとキャリア開発の視点から」（武蔵野大学），2008.8.6.

高橋美保（エッセイ）「ケースカンファレンスについて思うこと」『創価大学心理教育相談室年報』第6号，2009，pp. 13-17.

身体教育学コース

衛藤 隆（教授）

<著書・分担執筆>

「母子感染」「コラム—抗ウイルス療法と妊娠」「肝炎ウイルス以外のウイルス性肝障害 Wilson病」「子どもの脂肪肝」「コラム—肥満とジャンクフード」「母乳 母子感染」『患者さんの質問に答える慢性肝疾患診療，2版』松崎靖司，宜保行雄編，南山堂，pp.103-104, 104, 175-176, 177-180, 180, 181-182，2008.

「年齢と病気（5）環境との関係」『からだの年齢事典，初版』鈴木隆雄，衛藤 隆編，朝倉書店，pp.451-455，2008.

「はじめに」『学び合いで育つ未来への学力—中高一貫教育の新しいデザイン—』東京大学教育学部附属中等教育学校編著，衛藤 隆，汐見稔幸，佐藤 学，浦野東洋一，酒井邦嘉，荻谷剛彦著，明石書店，pp.3-7，2008.

「健康の考え方・とらえ方」「健康を科学する」「思春期の特徴」「思春期のからだ」「小児と事故」

「事故の予防」「ケアと応急処置」「教育の考え方」「教育制度」『新世紀の小児保健, 第3版』衛藤隆, 近藤洋子, 杉田克生, 村田光範編, 日本小児医事出版社, pp. 10-14, 15-16, 144-145, 146-147, 177-178, 179-181, 182-183, 188-190, 191-194, 2008.
「小児科医と法律」『研修ノートシリーズ 小児科研修ノート, 初版』永井良三総監修, 診断と治療社, pp. 101-104, 2009.

<論文>

Kalpna Poudel-Tandukar, Krishna C. Poudel, Junko Yasuoka, Takashi Eto, and Masamine Jimba. Domestic violence against women in Nepal. The Lancet. 371: 1664, 2008.
「子どもの活気」『沖縄の小児保健』35: 66-67, 2008.
「『子どもの心身の健康を守り, 安心・安全を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について』(中央教育審議会答申)からみた児童生徒等の健康と安全の問題」『学校保健研究』50(5): 329-333, 2008.
「小学生の防犯能力の測定, 評価に関する予備的研究ー誘拐防止を中心とした先行研究の分析ー」西岡伸紀らと共著『日本セーフティプロモーション学会誌』2(1): 71-75, 2009.
「学習指導要領からみたいのちを大切に作る心」『現代のエスプリ「いのちの教育の考え方と実際」』第499号, pp. 174-187, 2009.

<学会発表>

「平成の教育改革の流れにおける学校保健法の改正と健康相談活動」ダブル講演&鼎談「学校保健安全法を巡って」, 日本健康相談活動学会第5回學術集会, 2009.2.28, 千葉市

<講演>

「小児保健のこれからー社会の絆の質を問うー」会長講演, 第55回日本小児保健学会, 札幌コンベンションセンター, 2008年9月26日, 札幌市.

Takashi Eto: Protecting Children from Tobacco Hazards: Collaborative Activities by Three Pediatric and Child Health Associations in Japan since 2005. 7th Annual Conference of the International Society for the Prevention of Tobacco Induced Diseases. September 28, 2008, Shiran Kaikan, Medical Campus, Kyoto University, Kyoto, Japan.

「新時代の学校保健」招待講演2, 第55回日本学校保健学会, 愛知学院大学楠元キャンパス110周年

記念講堂, 2008年11月16日, 名古屋市

「新学習指導要領にみる性感染症予防教育のポイント」シンポジウム: 思春期の性感染症: 特殊性と子どもの自立・人権, 第21回日本性感染症学会, 学術総合センター, 2008年12月7日, 東京

「学校の保健管理におけるアレルギー疾患用学校生活管理指導表の意義」東京都医師会学校医部会, 東京都医師会館, 2008年5月15日, 2008年9月15日, 東京

「学校のアレルギー疾患に対する取り組み」中野区医師会学校医部会, 中野区医師会館, 2008年7月15日, 東京

「学校・家庭・地域の連携によるヘルスプロモーションをめざして」特別講演, 第25回兵庫県小児保健協会総会・シンポジウム, 兵庫県医師会館2階大会議室, 2008年8月2日, 神戸市

「学校の保健管理におけるアレルギー疾患用学校生活管理指導表の意義」江戸川区医師会学校医部会, 江戸川区医師会館, 2008年8月5日, 東京

「自らが主体的に健康管理ができる力を育てる保健管理の進め方」平成20年度全国養護教諭研究大会, 第一課題講義, とりぎん文化会館, 2008年8月8日, 鳥取市

「学校保健における最近の話題」日本小児科学会主催 第3回思春期医学臨床講習会, 北海道経済センター, 2008年9月27日, 札幌市

「提言のポイントと課題」特定非営利活動法人チャイルド・セーフティ主催『子どもを車で安全に移動させるためにーCPSをご存じですか?ー』公開シンポジウム, 六本木ヒルズアカデミー49F スカイスタジオ, 2008年9月28日, 東京

「感染症としての性質と治療法を中心に」基調講演, 大網白里町中央公民館主催, 肝炎講演会

「これだけは知っておきたいウィルス肝炎の知識ー母子感染等の対策及び新しい治療法ー」, 千葉県山武郡大網白里町中央公民館講堂, 2008年10月25日, 千葉県大網白里町

「わが国における今後の教育ー教育振興基本計画を受けてー」平成20年度教育改革セミナー in 愛知, ウィルあいち, 2008年10月30日, 名古屋市

「生涯を通じて健康の保持増進を図るための保健管理の進め方」第58回全国学校保健研究大会課題別協議会, 第6課題講義, 朱鷺メッセ会議室, 2008年11月7日, 新潟市

「学校のアレルギー疾患に対するガイドラインと学

校生活管理指導表（アレルギー疾患用）について」東京都学校保健会主催 校長等研修会，東京都医師会館講堂，2008年12月15日，東京

「変わりゆく時代と私たち」東京都立日野台高等学校講演，2008年12月18日，日野市

「これからの小児保健活動への期待」沖縄県小児保健協会35周年記念式典特別講演，沖縄小児保健センター講堂，2008年12月21日，沖縄県南風原町

「子どもの健康と安全を確保するための学校全体としての取り組み—中央教育審議会答申と学校保健安全法をふまえて—」学習公開・初等教育研修会「学校保健 子どもの健康をめぐる現代的課題への対応」，筑波大学附属小学校主催，筑波大学大塚キャンパス附属学校教育局，2009年2月13日，東京

「学校のアレルギー疾患に対する取り組みについて」日本医師会平成20年度学校医講習会講演，日本医師会館，2009年2月21日，東京

「新たな時代の養護教諭への期待」特別講演，全国養護教諭連絡協議会第14回研究協議会，メルパルクホール，2009年2月27日，東京

「世界に広がる『セーフコミュニティ』～普及への現状と課題」基調講演，地域の事故，ケガを予防する安全・安心な街づくり～「セーフコミュニティ」の現状と課題，第17回 セキュリティ・安全管理総合展「SECURITY SHOW 2009」，東京ビックサイト西ホール，2009年3月3日，東京

「学校健診の精度管理」第243回愛知県小児科医会例会・臨時総会，愛知県医師会館9階大講堂，2009年3月22日，名古屋

<その他>

(新聞記事)

「学校における健康診断」小学保健ニュース（(株)少年写真新聞社），第844号付録，P.1，2008年4月18日

「学校のアレルギー児童・生徒への対応」日本教育新聞，第5696号，p.18，2008年5月19日

「体の名前を覚えよう」小学保健ニュース（(株)少年写真新聞社），第874号付録，p.1，2009年3月18日

(付録)

「子どもの睡眠に関する提言」『小児内科』40(1): 133-136，2008.

(巻頭言)

「学びの名言『備えよ常に Be Prepared』」月刊 生

涯学習，1(9): 1，2008年8月25日

(座談会)

「特集 学校保健安全法」概論：衛藤 隆，岡田加奈子，山口智佳子，井上真理子，山梨八重子，鶴澤京子，西 能代，健，37(7): 10-15，2008.

「特集 学校保健安全法」質疑応答：衛藤 隆，岡田加奈子，山口智佳子，井上真理子，山梨八重子，鶴澤京子，西 能代，健，37(7): 24-33，2008.

(シンポジウム座長)

「21世紀の育児支援としての乳幼児健診の在り方」座長：衛藤 隆，保科 清，第111回日本小児科学会学術集会 総合シンポジウム3，2008年4月26日，東京国際フォーラム

(提言)

「これからの健康相談活動への期待」『心とからだの健康』，p.9，2009.1

(コメンテーター)

フォーラム「時代のニーズに応えた養護教諭の役割を追究する—新たな時代の養護教諭の役割と課題—」全国養護教諭連絡協議会 第14回研究協議会，メルパルクホール，2009年2月27日，東京

多 賀 巖太郎 (教授)

<雑誌論文>

H. Watanabe, F. Homae, T. Nakano, G. Taga: Functional activation of diverse regions of the developing brain of the human infants. *NeuroImage* 43, 346-357, 2008

T. Ikegami, G. Taga: Decrease in cortical activation during learning of a multi-joint discrete motor task. *Experimental Brain Research* 191, 221-236, 2008

Y. Yabe, G. Taga: Treadmill locomotion captures visual perception of apparent motion. *Experimental Brain Research* 191, 487-494, 2008

T. Nakano, F. Homae, H. Watanabe, G. Taga: Anticipatory cortical activation proceeds auditory events in sleeping infants. *PLoS ONE* 3, e3912, 2008

T. Nakano, H. Watanabe, F. Homae, G. Taga: Prefrontal cortical involvement in young infants' analysis of novelty. *Cerebral Cortex* 19, 455-463, 2009

H. Watanabe, G. Taga: Flexibility in infant actions during arm- and leg-based learning in a mobile paradigm. *Infant Behavior and Development* 32, 79-90, 2009

多賀巖太郎：発達と創発，計測と制御 48: 47-52，2009

<著書>

多賀巖太郎：初期発達のダイナミクス，「発達する知能 インテリジェンス・ダイナミクス3」（藤田雅博，下村秀樹 編）シュプリンガー・ジャパン，113-135, 2008

保前文高，多賀巖太郎：言葉と音楽を育む赤ちゃんの脳「脳科学と芸術」（小泉英明 編）工作舎，101-116, 2008

<その他の業績>

G. Taga: Mind and brain in young infants. Asia-Pacific conference on mind brain and Education, Nanjing, China, Oct 25, 2008 (invited)

T. Ikegami, M. Hirashima, G. Taga, D. Nozaki: Asymmetric transfer of learning between discrete and rhythmic movements. Society for Neuroscience 38th Annual Meeting (Neuroscience 2008), Washington DC Nov., 2008

G. Taga: Functional brain development in early infancy. ESF-JSPS Frontier Science Conference Series for young researchers, Naples, Italy, Mar. 1, 2009 (invited)

池上剛，平島雅也，多賀巖太郎，野崎大地：離散運動と周期運動の間の非対称な学習転移，第2回生理学研究所Motor Control研究会，岡崎，2008.5

中野珠実，保前文高，渡辺はま，多賀巖太郎：睡眠中の乳児の脳における聴覚イベントへの準備的活動，第31回日本神経科学大会，東京，2008.7.10

多賀巖太郎：発達から探る脳の構成原理と動作原理，第48回生物物理夏の学校，八王子，2008.7.21（招待）

多賀巖太郎：乳児の学習と意欲・意思の発現，脳科学と社会研究開発領域領域架橋型シンポジウムシリーズ，東京，2008.10.4（招待）

多賀巖太郎：乳幼児教育の脳科学，特別支援教育と脳科学第2回セミナー，東京，2008.11.8（招待）

多賀巖太郎：脳機能光イメージング，小児神経学会セミナー，逗子，2008.11.24（招待）

多賀巖太郎：赤ちゃんの脳と行動の発達，JST/CREST 第四回公開シンポジウム，東京，2008.11.29

多賀巖太郎：乳児の発達脳科学，日本学術会議第三分科会連携シンポジウム「脳とこころの発達」プログラム，東京，2008.12.12（招待）

多賀巖太郎：赤ちゃんの行動と脳の発達，NPO法人ニューロクリアティブ研究会第2回セミナー，東京，2009.1.31（招待）

武藤芳照（教授）

<編著書>

『スポーツ傷害のリハビリテーション』，（山下敏彦らと共著），金原出版，2008.7

『転倒予防医学百科』，日本医事新報社，2008.8

<論文>

「Effects of long-term comprehensive health education on the elderly in a Japanese village: Unnan cohort study」，（上岡洋晴らと共著），International Journal of Sports Health and Science, vol.6,60-65,2008

「最大一步幅によるダイナミックな移動からスタティックな直立状態に至るまでの姿勢制御に関する研究；高齢者と若年者の比較から」，（朴相俊らと共著），体力科学，vol.57, No.4, 423-432, 2008

「小学生の通学方法と日常の運動量・体型との関連—中山間地域の1小学校を対象としたケーススタディー」，（本多卓也らと共著），保健の科学，vol.50, No.9, 641-645, 2008

<解説・レポート>

「転倒予防」，Clinical Calcium, vol.18 No.11 2008

「スポーツ医学と理学療法」，理学療法，vol.26 No.3 2008

「学校における運動器検診」，日本臨床，vol.67, No.2, 351-355, 2008

<学会発表>

「高齢者骨折と転倒予防 パネルディスカッション—病院内での「転倒予防教室」10年の経験，—運営体制，効果と課題—」（岡田知佐子らと共同），第56回東日本整形外科学会，2007.9

「大腿骨頸部骨密度と身体機能による転倒・骨折の予測因子について」，（小松泰喜らと共同），第8回東京骨・カルシウム・ホルモン代謝学会，2007.12

<学術講演等>

「転倒予防の医学研究と実践活動の進め方」，名古屋大学医学部保健学科講演，2008年4月，名古屋大学

「整形外科スポーツ医学の実践—予防と教育」，愛知県整形外科医会研修講演，2007年4月，名古屋市

「高齢者の転倒・骨折・介護予防の理論と実践」，転倒予防教室学術講演会，2008年5月，那覇市

「転ばぬ先の杖と知恵」，転倒予防教室市民公開講座，2008年5月，那覇市

「転倒予防のコツ伝授教室」，第14回大森在宅ケア勉強会，2008年5月，大田区

「水中運動と健康社会作り—ソフトとハードそしてハート—」, ヤマハ文化フォーラム, 2008年5月, 千代田区

「転ばぬ先の杖と知恵—転倒予防7か条—」 2008年5月, 千曲市

「体を育む—スポーツ傷害・事故を防ぐために—」 2008年6月, 愛知県一色町

「高齢者の転倒予防の実践と教育」, 福井県内科医会学術講演会, 2008.7, 福井市

「運動器疾患・傷害予防の教育と実践—子どものスポーツ傷害予防から高齢者の転倒・骨折・介護予防まで—」, 第5回運動機能障害フォーラムわかやま, 2008年8月, 和歌山市

「高齢者の転倒予防の実践教育」, 金隈病院職員研修会, 2008年8月, 福岡市

「『運動器の10年』世界運動の目指すもの—成長期における運動器傷害予防の重要性」, 子どもの健康を守る地域専門家総合連携事業, 2008年8月, 福岡市

「転倒・骨折予防のための運動処方の実際」, 骨粗鬆症フォーラム2008, 2008年8月, 札幌

「整形外科スポーツ医学の実践—予防と教育—」, 第23回熊本スポーツ整形外科研究会, 2008年8月, 熊本市

「転ばぬ先の杖と知恵—高齢者の転倒・骨折・寝たきり予防—」, 第55回栄養改善学会学術総会, 2008年9月, 鎌倉市

「転倒予防の実践と教育」, 第44回日本赤十字社医学会総会, 2008年10月, 釧路市

「健康づくりのための水中運動, 水泳のしかたと注意」, 日本リハビリテーション医学会, 2008年10月

「中高年の健康と運動—健康づくりのための運動・スポーツの仕方と注意—転ばぬ先の杖と知恵」, 平成20年度東京大学事務長会議講話, 2008年10月

「転倒・骨折予防のための運動処方—「運動器の10年」の立場から—」, 第10回骨粗鬆症学会, 大阪

「転倒・骨折予防の実践と教育」, 第62回国立病院総合医学会, 2008年11月, 東京

「児童・生徒のスポーツ障害予防と学校における運動器検診の整備・充実」, 明石外科整形外科医学会学術講演会, 2008年12月, 明石市

「整形外科スポーツ医学の実践と教育—子どもの運動器検診の普及から高齢者の運動処方まで」, 滋賀整形外科フォーラム2009, 2009年2月, 大津市

「発育期の運動器の傷害と学校運動器検診の意義」, 京都府整形外科医会例会, 2009年3月, 京都

山本義春(教授)

<論文>

Togo, F., B. H. Natelson, G. K. Adler, J. E. Ottenweller, D. L. Goldenberg, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Plasma cytokine fluctuations over time in healthy controls and patients with fibromyalgia. *Experimental Biology and Medicine* 234: 232-240, 2009.

Pan, W., R. Soma, S. Kwak, and Y. Yamamoto. Improvement of motor functions by noisy vestibular stimulation in central neurodegenerative disorders. *Journal of Neurology* 255: 1657-1661, 2008.

Sakamoto, N., K. Yoshiuchi, H. Kikuchi, Y. Takimoto, H. Kaiya, H. Kumano, Y. Yamamoto, and A. Akabayashi. Panic disorder and locomotor activity. *BioPsychoSocial Medicine* 2: 23-1-6, 2008.

Yoshiuchi, K., Y. Yamamoto, and A. Akabayashi. Application of ecological momentary assessment in stress-related diseases. *BioPsychoSocial Medicine* 2: 13-1-6, 2008.

Ishizawa, T., K. Yoshiuchi, Y. Takimoto, Y. Yamamoto, and A. Akabayashi. Heart rate and blood pressure variability and baroreflex sensitivity in patients with anorexia nervosa. *Psychosomatic Medicine* 70: 695-700, 2008.

Aihara, T., K. Kitajo, D. Nozaki, and Y. Yamamoto. Internal noise determines external stochastic resonance in visual perception. *Vision Research* 48: 1569-1573, 2008.

Kishi, A., Z. R. Struzik, B. H. Natelson, F. Togo, and Y. Yamamoto. Dynamics of sleep stage transitions in healthy humans and patients with chronic fatigue syndrome. *American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology* 294: R1980-R1987, 2008.

Takeda, Y., K. Yamanaka, D. Nozaki, and Y. Yamamoto. Extracting a stimulus-unlocked component from EEG during NoGo trials of a Go/NoGo task. *NeuroImage* 41: 777-788, 2008.

Nakamura, T., T. Takumi, A. Takano, N. Aoyagi, K. Yoshiuchi, Z. R. Struzik, and Y. Yamamoto. Of mice and men - universality and breakdown of behavioral organization. *PLoS ONE* 3: e2050-1-8, 2008.

＜招待講演・シンポジウム講演＞

Yamamoto, Y. Stochastic resonance in neural systems revisited: roles of neural plasticity. *Stochastic Resonance 2008. Ten Years of Continuous Growth*. Perugia, Italy (August, 2008).

Yamamoto, Y. Complexity in daily life - toward understanding of our behavioral organization. *ASTRA Pearls Lecture at the National Institute of Aging*. Baltimore, U.S.A. (June, 2008).

山本義春. ゆらぎの生物学的意義 ～身近な生体信号での検討～. 平成20年度日本生体医工学会東海支部大会・特別講演, 名古屋, 2008年10月.

山本義春. 非線形解析による循環調節研究. 第9回 Neurocardiology Workshop・パネルディスカッション「Neurocardiology研究を支える 研究方法とその成果」, 東京, 2008年7月.

佐々木 司 (准教授)

＜雑誌論文＞

Miyagawa T, Nishida N, Ohashi J, Kimura R, Fujimoto A, Kawashima M, Sasaki T, Tanii H, Otowa T, Momose Y, Nakahara Y, Gotoh J, Okazaki Y, Tsuji S, Tokunaga K. (2008) Appropriate data cleaning methods for genome-wide association study. *J Hum Genet* 53 (10) 886-93.

Shiota S, Tochigi M, Shimada H, Ohashi J, Kasai K, Kato N, Tokunaga K, Sasaki T*. (2008) Association and interaction analyses of NRG1 and ERBB4 genes with schizophrenia in a Japanese population. *J Hum Genet* 53 (10): 929-35.

Yamasue H, Kakiuchi H, Tochigi M, Inoue H, Suga M, Abe O, Yamada H, Sasaki T, Rogers M, Aoki S, Kato T, Kasai K. (2008) Association between mitochondrial DNA 10398A>G polymorphism and the volume of amygdale. *Genes Brain and Behavior* 7 (6):698-704.

Kato C#, Tochigi M#, Ohashi J, Koishi S, Kawakubo Y, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Kim S-Y, Watanabe K, Kano Y, Nanba E, Kato N, Sasaki T* (#:equal contribution) (2008) Association study of the 15q11-q13 maternal expression domain in Japanese autistic patients. *Am J Med Genet Part B (Neuropsychiatric Genet)* 147B:1008-12..

Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Kunugi H, Minabe Y, Nakamura K, Mori N, Fujii K, Umekage T, Tochigi M, Kohda K, Sasaki T, Yamada K, Yoshikawa T, Kato T. (2008) Association analysis of HSP90B1 with bipolar

disorder. *J Hum Genet*. 52 (10) 794-803.

Ishiguro H, Imai K, Koga M, Horiuchi Y, Inada T, Iwata N, Ozaki N, Ujike H, Itokawa M, Kunugi H, Sasaki T, Watanabe Y, Someya T, Arinami T. (2008) Replication study for associations between polymorphisms in the CLDN5 and DGCR2 genes. *Psychiatr Genet* 18 (5): 235-6.

Tochigi M#, Kato C#, Ohashi J, Koishi S, Kawakubo Y, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Kim S-Y, Watanabe K, Kano Y, Nanba E, Kato N, Sasaki T* (#:equal contribution) (2008) No association between the ryanodine receptor 3 gene and autism in a Japanese population. *Psychiatr Clin Neurosci* 62:341-4.

Kakiuchi C, Ishiwata M, Nanko S, Ozaki N, Iwata N, Umekage T, Tochigi M, Kohda K, Sasaki T, Imamura A, Okazaki Y, Kato T (2008) Up-regulation of ADM and SEPX1 in the lymphoblastoid cells of the patients in monozygotic twins discordant for schizophrenia. *Am J Med Genet Part B (Neuropsychiatric Genet)* 147B:557-64.

Nishida A, Tanii H, Nishimura Y, Kajiki N, Inoue K, Okada M, Sasaki T, Okazaki Y (2008) Associations between psychotic-like experiences and mental health status and other psychopathologies among Japanese early teens. *Schizophrenia Res* 99:125-133.

Tochigi M, Iwamoto K, Bundo M, Sasaki T, Kato N, Kato T (2008) Gene expression profiling of major depression and suicide in the prefrontal cortex of postmortem brains. *Neurosci Res* 60:184-91.

Kato C#, Tochigi M#, Koishi S, Kawakubo Y, Yamamoto K, Matsumoto H, Hashimoto O, Kim S-Y, Watanabe K, Kano Y, Nanba E, Kato N, Sasaki T* (#:equal contribution) (2008) Association study of the commonly recognized breakpoints in chromosome 15q11-q13 in Japanese autistic patients. *Psychiatric Genet* 18:133-6.

Kawase E, Hashimoto K, Sakamoto H, Ino H, Katsuki N, Iida Y, Umekage T, Fukuda R, Sasaki T*. (2008) Variables associated with the need for support in mental health check-up of new undergraduate students. *Psychiatr Clin Neurosci* 62:98-102.

Tochigi M, Iwamoto K, Bundo M, Komori A, Sasaki T, Kato N, Kato T. (2008) Methylation status of the reelin promoter region in the brain of schizophrenic patients. *Biol Psychiatry* 63:160-163.

Ohtani T, Sasaki T, Kadomoto I, Kato N, Yoshinaga C. (2008) Birth months and vulnerability to juvenile delinquency. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 32: 49-53.

島田隆史, 佐々木司 (2008) AD/HDの遺伝子. *精神科* 12:262-8

野 崎 大 地 (准教授)

<雑誌論文>

Kawashima N, Nozaki D, Abe M, Nakazawa K, 「Shaping appropriate locomotive motor output through interlimb neural pathway within spinal cord in humans.」, 『*Journal of Neurophysiology*』 第99巻, 2008, pp. 2946-2955.

Nozaki D, 「Torque interaction among adjacent joints due to the action of bi-articular muscles.」, 『*Medicine & Science in Sports & Exercise*』 第41巻, 2009, pp.205-209.

Nozaki D, Scott SH, 「Multi-compartment model can explain partial transfer of learning within the same limb between unimanual and bimanual reaching.」, 『*Experimental Brain Research*』 第194巻, 2009, pp. 451-463.

Takeda Y, Yamanaka K, Nozaki D, Yamamoto Y (2008) Extracting covert response-locked component from EEG during NoGo trials of Go/NoGo task. *Neuroimage* 41: 777-788

Aihara T, Kitajo K, Nozaki D, Yamamoto Y (2008) Internal noise determines external stochastic resonance in visual perception. *Vision Research* 48:1569-1573

<学会発表>

野崎大地 (招待), 「運動学習から覗く脳内過程.」, 『COMPO 研究会招待講演』, 2008.4.21, 東京.

Nozaki D (学会発表), 「Limited transfer of learning between unimanual and bimanual skills within the same limb.」, 『*Annual Meeting of the Neural Control of Movement*』, 2008.5.2, Naples Beach, USA.

野崎大地 (学会発表), 「片腕・両腕運動時の運動学習過程の数学的モデル: 空間構造と時間的動態の密接な関係.」, 『第2回生理学研究所Motor Control研究会』, 2008.5.29-31, 岡崎.

池上剛, 平島雅也, 多賀厳太郎, 野崎大地 (学会発表), 「離散運動と周期運動の間の非対称な学習転移.」, 『第2回生理学研究所Motor Control研究会』, 2008.5.29-31, 岡崎.

横井 惇, 平島雅也, 野崎大地 (学会発表), 「反対側上肢運動に応じた運動学習メモリの切り替わり.」, 『第2回生理学研究所Motor Control研究会』, 2008.5.29-31, 岡崎.

平島雅也, 野崎大地 (学会発表), 「上肢到達運動における座標変換と筋活動選択を行うニューラルネットワークモデル.」, 『第2回生理学研究所Motor Control研究会』, 2008.5.29-31, 岡崎.

平島雅也, 野崎大地 (学会発表), 「到達運動における座標変換と筋活動選択を行う一次運動野のニューラルネットワークモデル.」, 『第26回 日本ロボット学会学術講演会』, 2008.9.9-11, 神戸.

Ikegami T, Hirashima M, Taga G, Nozaki D (学会発表), 「Asymmetric transfer of learning between discrete and rhythmic movements.」, 『*Society for Neuroscience*』, 2008.11.15-19, Washington, DC.

Yokoi A, Hirashima M, Nozaki D (学会発表), 「Contralateral limb motion-dependent motor learning in bimanual movement.」, 『*Society for Neuroscience*』, 2008.11.15-19, Washington, DC.

Hirashima M, Nozaki D (学会発表), 「Coordinate transformation with muscle redundancy in cortical network: A modeling study.」, 『*Society for Neuroscience*』, 2008.11.15-19, Washington, DC.

Obata H, Takahashi M, Nozaki D, Nakazawa K (学会発表), 「Spike-timing dependent plasticity in the human spinal motoneuronal pool.」, 『*Society for Neuroscience*』, 2008.11.15-19, Washington, DC.

平島雅也, 野崎大地 (学会発表), 「上肢到達運動における座標変換と筋活動選択を行う皮質ニューラルネットワークモデル.」, 『計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会』, 2008.11.26-28, 姫路.

野崎大地 (招待), 「運動学習から覗く脳内過程.」, 『日本ボバース研究会・関東ブロック研修会招待講演』, 2009.2.28, 取手.

野崎大地 (招待), 「運動学習から覗く脳内過程.」, 『早稲田大学スポーツ科学研究センターシンポジウム「スポーツと脳2009」招待シンポジウム』, 2009.3.14, 東京.

池上剛, 平島雅也, 多賀厳太郎, 野崎大地 (学会発表), 「離散運動と周期運動の制御過程の違い.」, 『早稲田大学スポーツ科学研究センターシンポジウム「スポーツと脳2009」』, 2009.3.14, 東京.

平 島 雅 也 (助教)

<雑誌論文>

- Hirashima M, Yamane K, Nakamura Y, and Ohtsuki T.
Kinetic chain of overarm throwing in terms of joint
rotations revealed by induced acceleration analysis.
Journal of Biomechanics. 41 (13):2874-2883, 2008.
- Hirashima M and Ohtsuki T. Exploring the mechanism of
skilled overarm throwing. *Exercise and Sport Sciences
Reviews*. 36 (4):205-211, 2008.

教職開発コース

佐 藤 学 (教授)

<著書 (分担執筆)>

- 「教師教育の危機と改革の原理的検討」(日本教師教育学会編『日本の教師教育改革』学事出版 2008年4月 pp.20-37.)
- 「学校再生の哲学—学びの共同体と活動システム」(田中智志編『グローバルな学びへー協同と刷新の教育』(東信堂 2008年6月 pp.41-70.)
- 「『学びの共同体』による学校改革—中等教育のモデルスクールへ」(東京大学教育学部附属中等教育学校編『学び合いで育つ未来への学力』東京書籍 2008年6月 pp.28-35.)
- 학교개혁의 철학 - '배움의 공동체' 의 비전과 원리 그리고 활동 시스템 -, 월간 우리교육 별책: 수업을 바꾸는 조용한 혁명 '배움의 공동체', 서울: 우리교육, 2008.6. 4-21.
- 「日本の授業研究の歴史的重層性について」(秋田喜代美・キャサリン・ルイス編『授業の研究・教師の学習』(明石書店 2008年6月 pp.43-46.)
- 「グローバル化による日本の学校カリキュラムの葛藤」(勞凱声・山崎高哉編『日中教育学対話』春風社 2008年9月 pp.265-297.)

<学術論文>

- 「新学習指導要領における学力政策のディレンマ」(『日本教育政策学会年報』第15号 2008年6月 pp.8-20.)
- Philosophy on the Restoration of Schools in Japan: The Vision, Principles and Activity System of the Learning Community. *Journal of All India Association for Educational Research*, Vol.20. Nos. 3-4, September & December 2008. India. Pp.14-26.
- Historical Aspects of the Concept of "Compulsory Education": Rethinking of the Rhetoric of Debates in Current Reform. *Educational Studies in Japan*:

International Yearbook, No.3. Japanese Educational Research Association, December 2008. pp.65-84.

<雑誌論文・その他>

- 「教師花伝書」(連載 『総合教育技術』小学館 2008年4月~2009年3月)
- 「子ども・学校・教育を考える—体育をめぐって」(本間政雄+佐藤学+友添秀則+中村俊雄+清水論 『現代スポーツ評論』第18号 創文企画 2008年5月 pp.16-31.)
- 「学びの質と教育の自律性の追求へ」(全日本教職員組合『クレスコ』大月書店 インタビュー 2008年8月号 pp.14-19.)
- 「教育のイノベーション」(『教育と医学』巻頭言 2008年11月号 慶応義塾大学出版会 pp.1-2.)

<講演・報告・対談など>

- 「子どもの居場所」(谷川俊太郎+佐藤学+富田玲子「『小さな建築』をめぐる千夜一夜」第一回 東京デザインセンター 2008年4月17日)
- Conflicts of School Curriculum in Japan under Globalization, Invited Speech, Korean Society for Curriculum Studies, Ewha Woman University, Seoul Korea, April 25 2008.
- Inovating Research on Teaching through Redefining Learning, Invited Speech, Seoul. National University, Center for Teaching and Learning, Seoul Korea, April 25 2008.
- 「グローバル化する日本の学校カリキュラムの改革—政策のディレンマ」(招待講演 通訳: 沈曉敏 華東師範大学 上海 中華人民共和国 2008年5月6日)
- Curriculum Dilemma under Globalized Japan, Invited Speech, 台南大学 台湾 2008年5月21日)
- Philosophy and Practical Strategies of School Reform toward Learning Community, Invited Speech at 2008 International Conference on Theory and Practice of Curriculum and Instruction Reform. 花蓮教育大学 台湾 2008年5月23日)
- 「リテラシー概念とその教育—言語教育政策の批判的検討」(日本言語政策学会・関東地区大会基調講演 早稲田大学 2008年6月14日)
- 「日本と中国の教育研究の対話」(東京大学教育学研究科・華東師範大学教育学院学術交流シンポジウム基調報告, 東京大学, 2008年7月19日)
- Being Philosophical and Educational. Opening Speech at 11th Biennial Conference of the International Network

of Philosophers of Education, Kyoto University, August 9th, 2008.

「言語リテラシー教育のデザイン」(東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化センター・基礎学力向上プロジェクト・シンポジウム「新しい時代のリテラシー教育を求めて」基調報告 東京大学 2008年8月24日)

「転換期の教育学研究—改革へのポジション」(日本教育学会第67回大会・特別シンポジウム「教育改革における日本教育学会の役割」 仏教大学 2008年8月29日)

「読書の歓びと学校図書館の役割」(財団法人文字・活字文化推進機構主催・子どもの読書環境推進フォーラム基調講演, 2008年9月13日)

Reforma en la escuela hacia comunidades de aprendizaje en Japon. Cambios Educativos Mexico-Japon, CINVESTAV-El Colegio de Maxico, 17-19 Septiembre 2008, Mexico.

「教職専門性の開発と小学校中学校教育の質の保障」(通訳: 沈曉敏 華東師範大学教育学院・東京大学教育学研究科学術交流シンポジウム・記念講演, 華東師範大学・上海・中華人民共和国 2008年10月11日)

「学びの共同体づくりの学校改革=その理論と実践」(通訳: 于莉莉 咸陽師範学院名誉教授授与講演 咸陽 中華人民共和国 2008年10月13日)

「大学発教育コンソシアムの可能性」(国立大学協会主催 高大連携ワークショップ 2008年10月20日)

Japanese Lesson Studies: Looking Back and Thinking Forward, Invited Keynote Speech, World Association of Lesson Studies, Hong Kong Institute of Education, December 2, 2008.

学校開発政策コース

勝野正章(准教授)

<著書>

【共著・共編著】

小川正人・勝野正章(共著),『新訂 教育経営論』放送大学教育振興会, 2008, 総頁数172, 第8章~第15章(pp.115-224)執筆.

勝野正章・藤本典裕(共編著),『教育行政学(改訂版)』学文社, 2008, 総頁数155, 第1章(pp.7~16)執筆.

【分担執筆】

勝野正章(単著),「教職課程の認定と評価をめぐる最近の政策について」日本教師教育学会編『日本の教師教育改革』,学事出版, 2008, pp.104-116 (日本教師教育学会年報第15号(2006年9月), pp.26~32の再録).

勝野正章(単著),「第16条 教育行政」, 浪本勝年・三上昭彦編著『「改正」教育基本法を考える—逐条解説—【改訂版】』,北樹出版, 2008, pp.97-101執筆.

勝野正章(単著),「教育課程論の歴史的展開」, 柴田義松編著『教育課程論』(第二版), 学文社, 2008, pp.12~30執筆.

<雑誌論文>

M.Katsuno & T.Takei (2008) School evaluation at Japanese schools: policy intentions and practical appropriation, *London Review of Education*, vol.6. issue.2, pp.171-181.

勝野正章(単著),「教師を判定, 評価, 比較することの意味」,『高校生活指導』, No.177, 2008年夏季号, pp.52-57.

勝野正章(単著),「『教員の地位に関する勧告』の現代的意義」,『クレスコ』, 2008年7月号, pp.30~33.

勝野正章(単著),「青年教師の苦悩と希望 誰もが自己成長できる場に」,『クレスコ』, 2008年11月号, pp.24~27.

勝野正章(単著),「全国学力調査・評価・PDCA体制を乗り越えるということ」,『教育』, 2009年2月号, No.757, pp.23-30.

勝野正章(単著),「専門職としての教師の自由と責任」,『クレスコ』, 2009年2月号, pp.12~17.

<その他の業績>

勝野正章(解説),「学校評議員」「学校運営協議会」「学校評価の義務化」「民間人校長・民間人教頭」(pp.38-41), 教育開発研究所編『学校管理職選考教育法規・記述・論文問題の研究』325p, 2008.

勝野正章(訳),デーヴィッド・ハルビン「不確実性の時代における教師の専門職性—折衷的でプラグマティックな教師アイデンティティの出現—」,久富善之編著『教師の専門性とアイデンティティ』,勁草書房, 2008, pp.249-280.

M. Katsuno (学会発表), The working of performativity: How is the teacher assessment enacted?, British Educational Research Association

Conference 2008, 3rd to 6th September, Heriot-Watt University, Edinburgh.

British Education Index <http://www.leeds.ac.uk/educol/documents/180454.pdf>

勝野正章（インタビュー）, 「改正教育職員免許法・教育公務員特例法の問題点—教師の仕事の本質論から」, 『季刊教育法』, 158号, 2008, pp.4-11.

勝野正章（解説）, 「揺らぐ公教育」, 東京大学新聞, 2452号, 2009

勝野正章（報告書）, 財団法人こども未来財団平成20年度児童関連サービス調査研究等事業『学校拠点型地域子育て支援ネットワークが有する「親教育機能」に関する調査研究（主任研究者 勝野正章）』2009, 119p, 「第1章 開かれた学校づくりと親教育の合流」（pp.4-8）, 「おわりに」（pp.110-112）執筆.

大学発教育支援コンソーシアム推進機構

三宅 なほみ（教授）

<著書>

- ・ Miyake, N. , Conceptual change through collaboration, In S.Vosniadou (Ed.), Handbook of research on conceptual change. London, Taylor & Francis Group, 2008, pp.453-478.

<学術論文>

- ・ 三宅なほみ, 「協調的な学習とAI」, 『人工知能学会誌』, 2008, 23(2), pp.174-183.
- ・ 三宅なほみ, 「多人数インタラクションを利用した学習とその支援」, 『人工知能学会誌』, 24(1), 2009, pp.62-69.